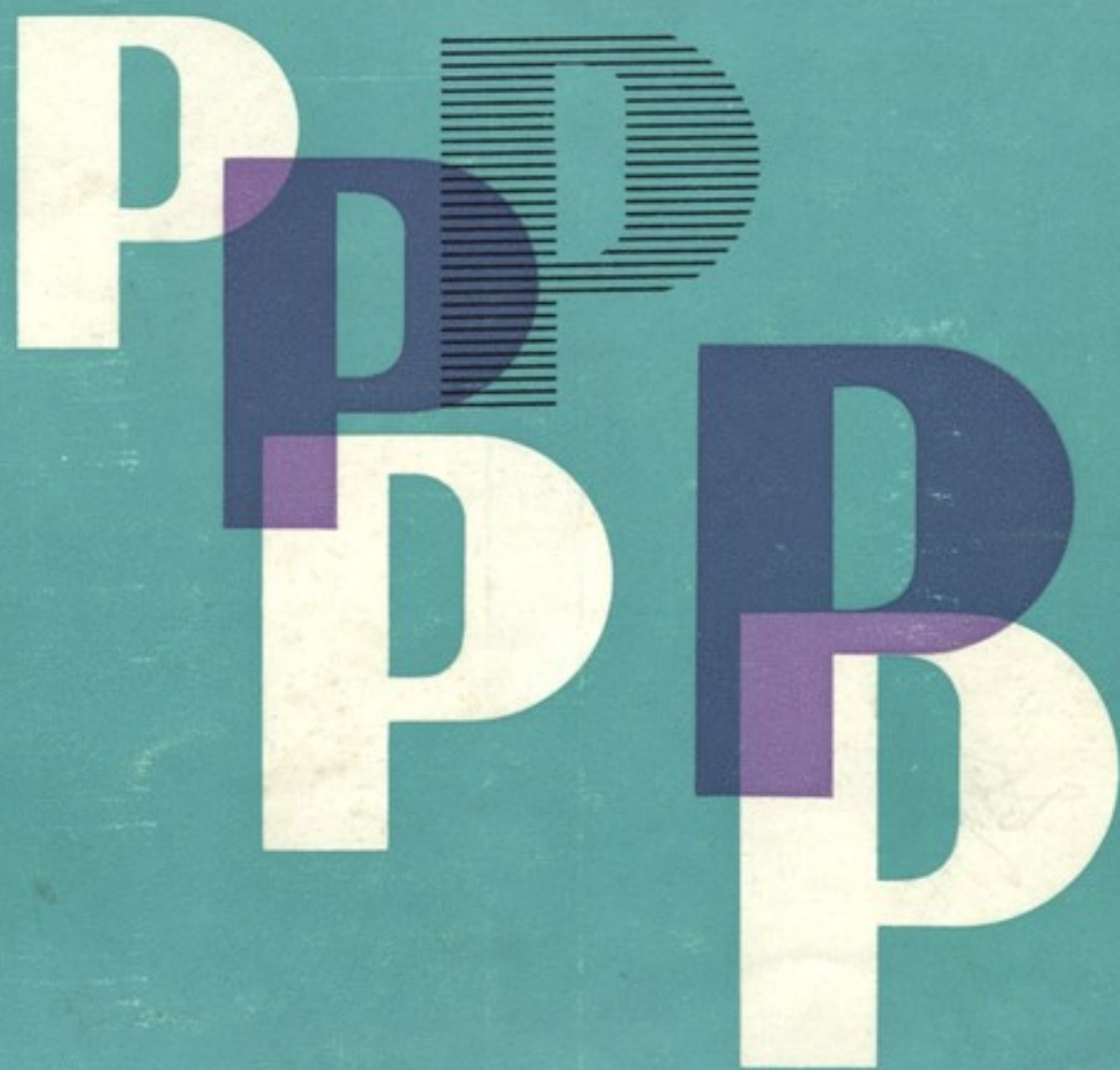


# Canon PPP

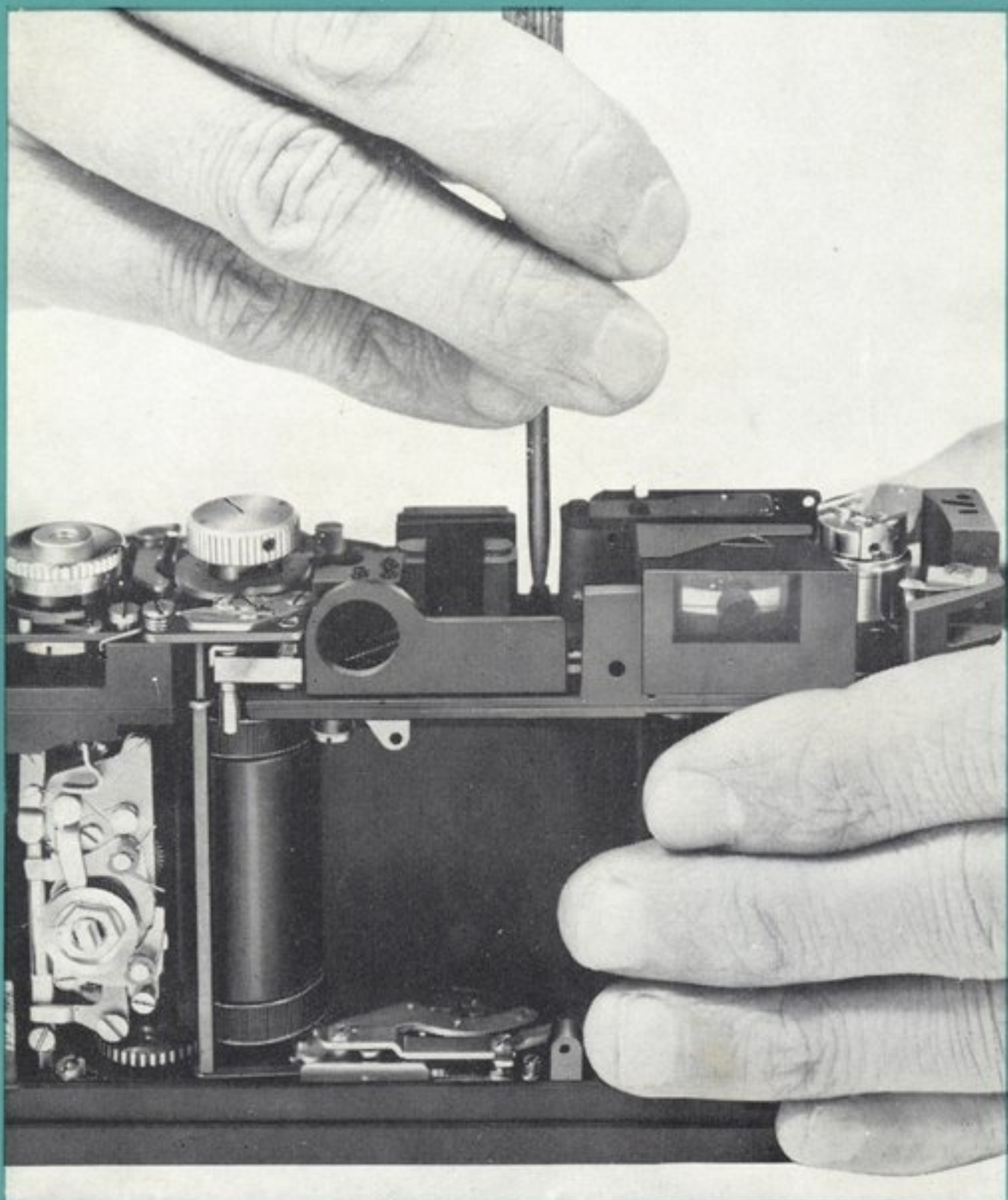


# Canon P

35mm CANON CAMERA



東京・大田区下丸子  
キヤノンカメラ株式会社

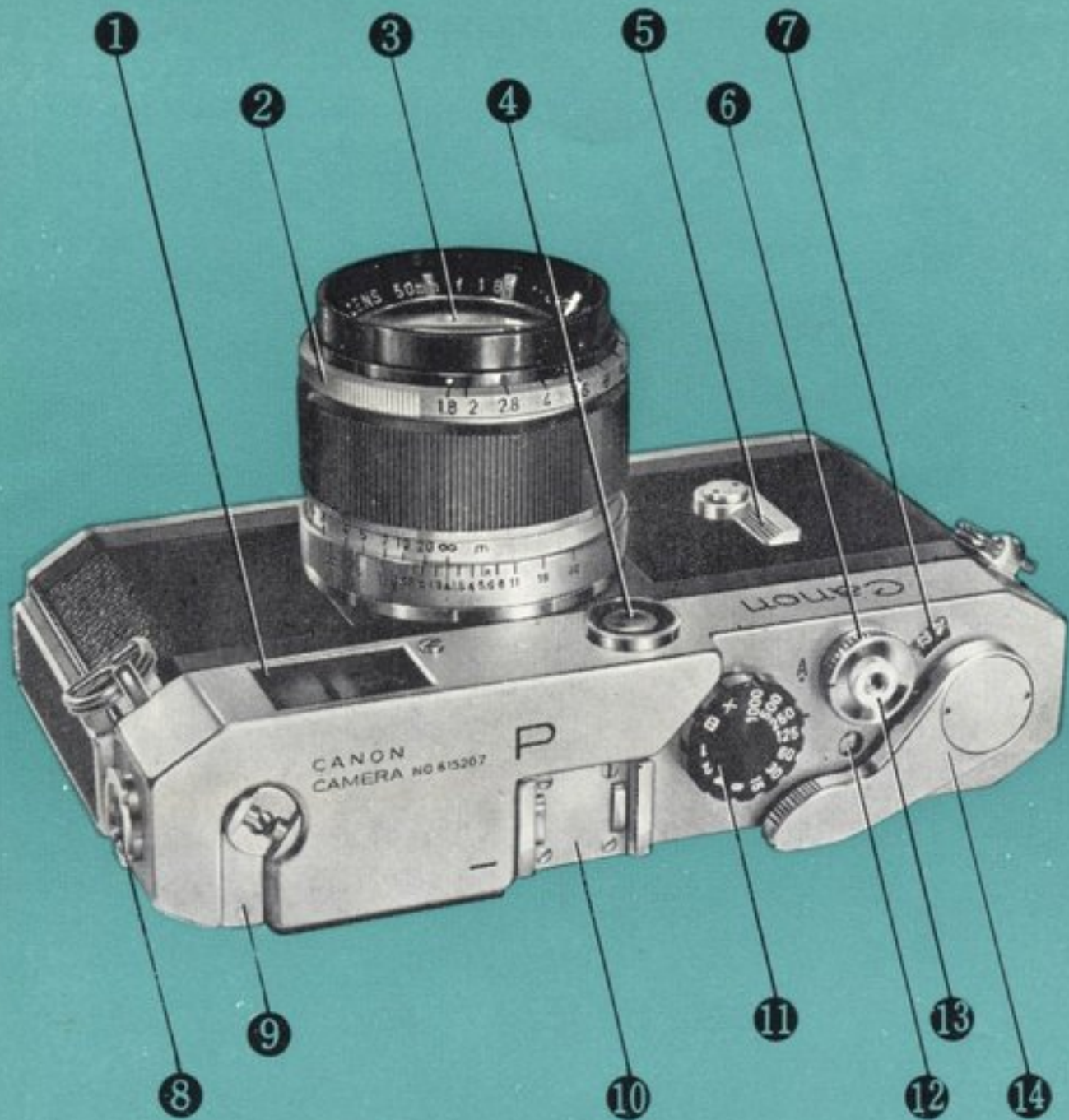


## 目次

● フィルムとシャッターの巻き上げ…	5
● シャッターの調節…	7
● キヤノンの構え方…	8
● ピントの調節…	9
● レンズの操作…	11
● フィルムの装填…	15
● フィルムの巻き戻し…	19
● フラッシュ同調…	21
● キヤノンメーターの連動…	23
● セルフタイマー…	27
● レンズの交換…	28
● キヤノン専用マガジンと フィルム の 填め方…	29
● 二重露出…	31
● カメラの保存手入れ…	32

キヤノンカメラおよびキヤノンレンズは、高度に合理化されたキヤノン工場から材料から製品に至るまでの一貫作業によって製造されています。しかも、その工程中には数十回に及ぶ機構的、光学的および電氣的検査が行われ、品質の向上と均一化に最大の努力が払われております。またこれらの検査成績は製品ごとにカードに記入され、製品の品質向上の資料あるいはお問い合わせや修理業務の資料として整理保管され、キヤノン製品を自信をもってお勧めすることのできる基礎となっております。

## 撮影の手順



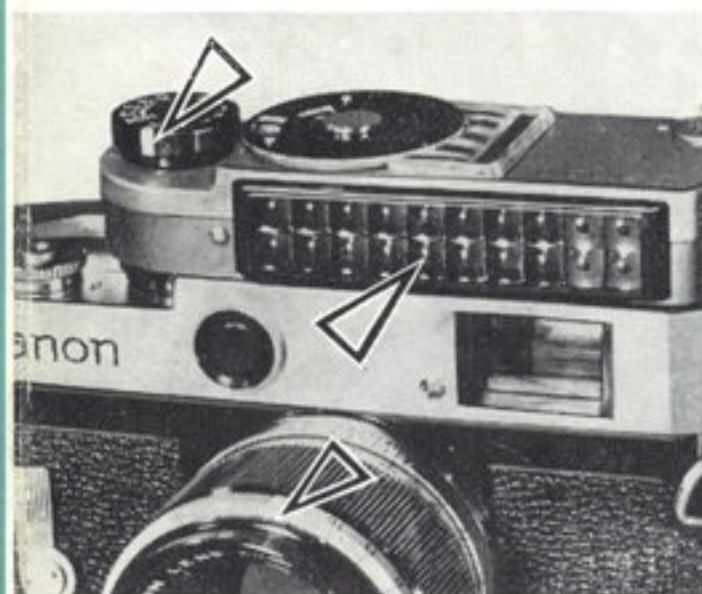
- ① レンジ・ビューファインダー窓…………… 9
- ② 絞り目盛…………… 11, 25
- ③ キヤノンレンズ…………… 9, 11, 28
- ④ レンジファインダー窓…………… 9
- ⑤ セルフタイマー…………… 27
- ⑥ 巻き戻しリング…………… 6, 19, 31
- ⑦ 自動復帰フィルム枚数表示窓…………… 6, 17
- ⑧ フラッシュユニット直結ソケット…………… 21
- ⑨ 巻き戻しクラック…………… 17, 19, 24, 31
- ⑩ アクセサリークリップ…………… 10, 24
- ⑪ 一軸シャッターダイヤル…………… 7, 24
- ⑫ フィルム巻き戻し指標…………… 19, 31
- ⑬ シャッターボタン…………… 5, 6
- ⑭ 巻き上げレバー…………… 5, 6, 31

● 最後の頁にはカメラの裏面よりの説明写真があります  
見開きでごらんください

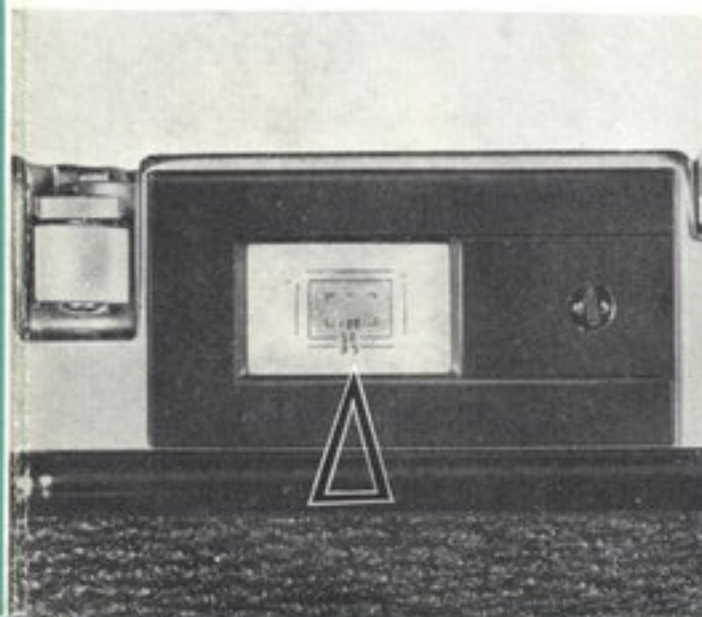
### 1 レンズキャップをはずす



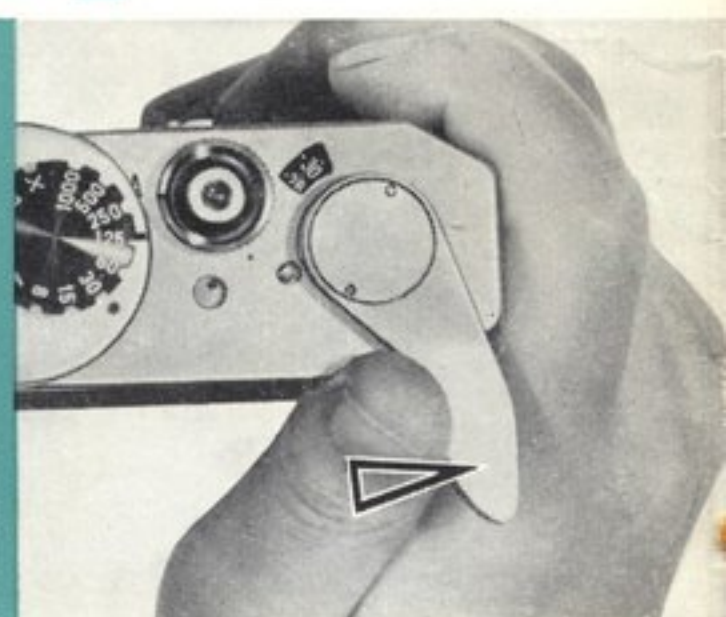
### 3 キヤノンメーターにより シャッターと絞りをきめる



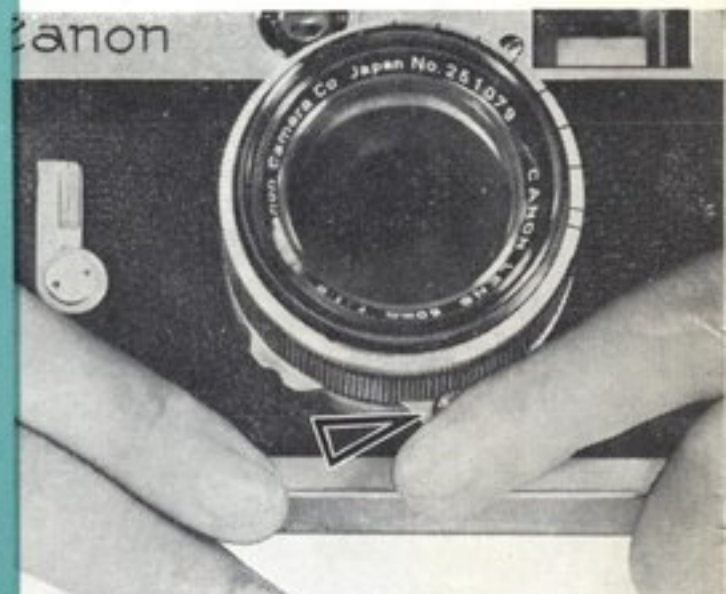
### 5 構図をきめる



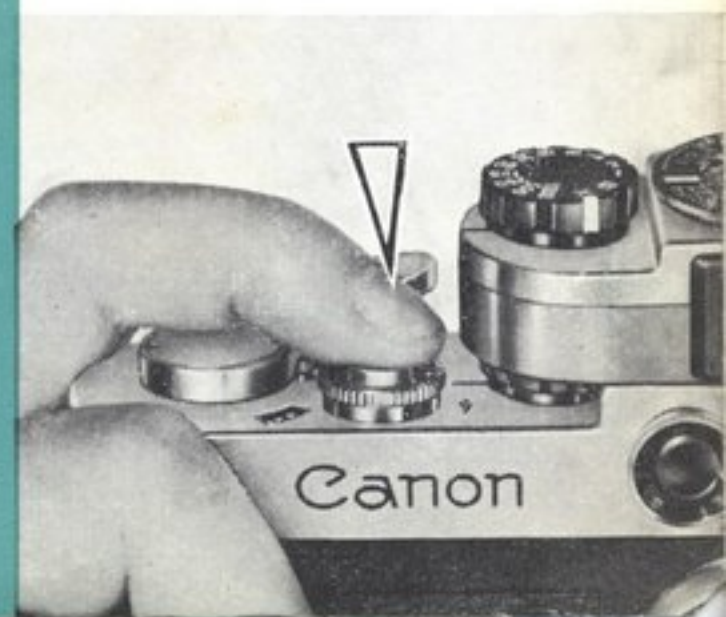
### 2 巻き上げをする



### 4 被写体にピントを合わせる

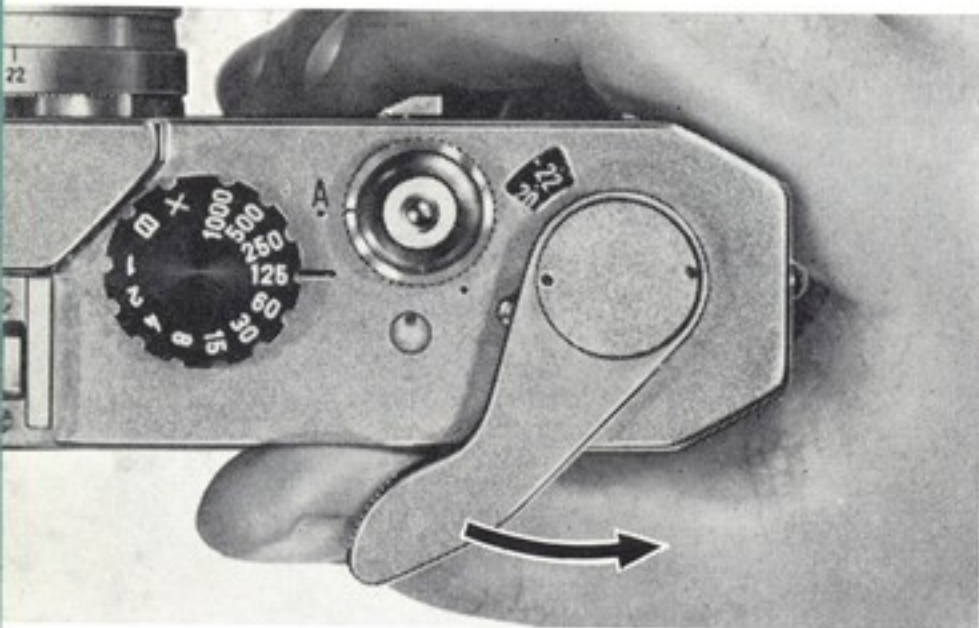


### 6 シャッターボタンを押す

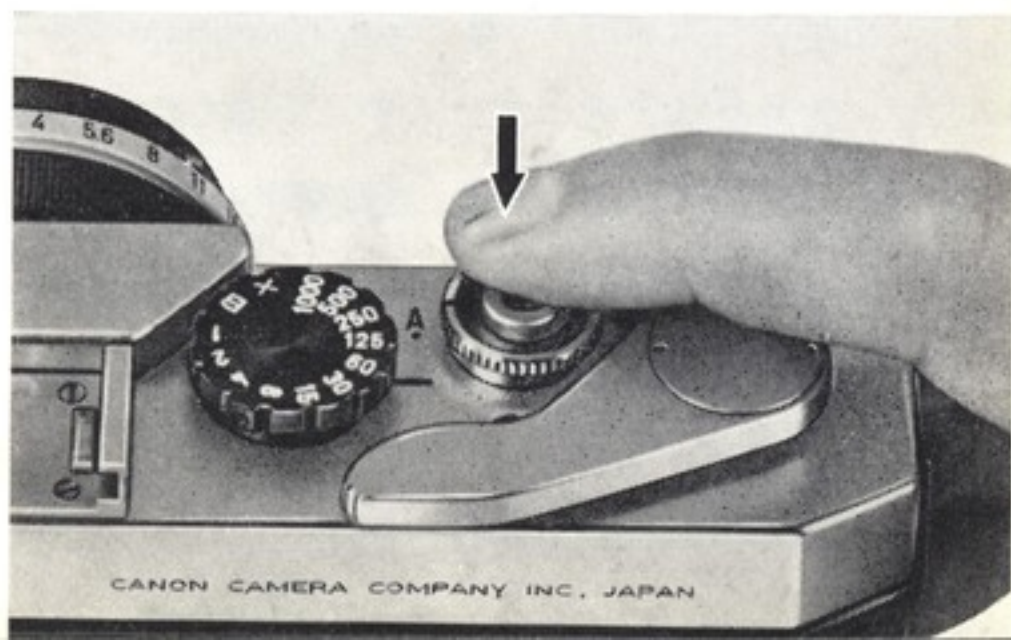


## フィルムとシャッターの巻き上げ

巻き上げレバーの端に指をかけて矢印の方向に止まる  
ところまで回すとフィルムが1コマ分送られ、同時にシ  
ャッターが巻き上げられます。

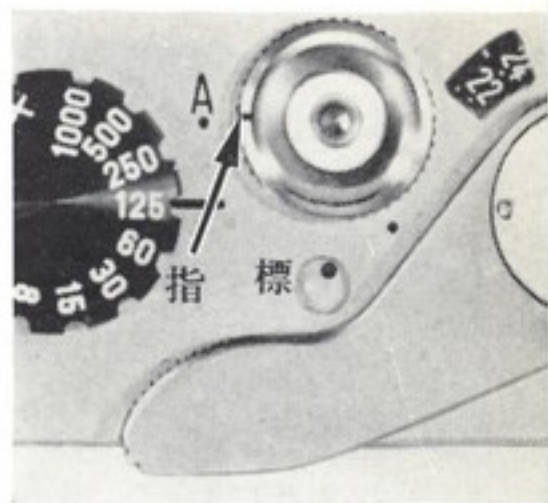


シャッターボタンを押すとシャッターが作用し  
た後、再び次の巻き上げができるようになります。

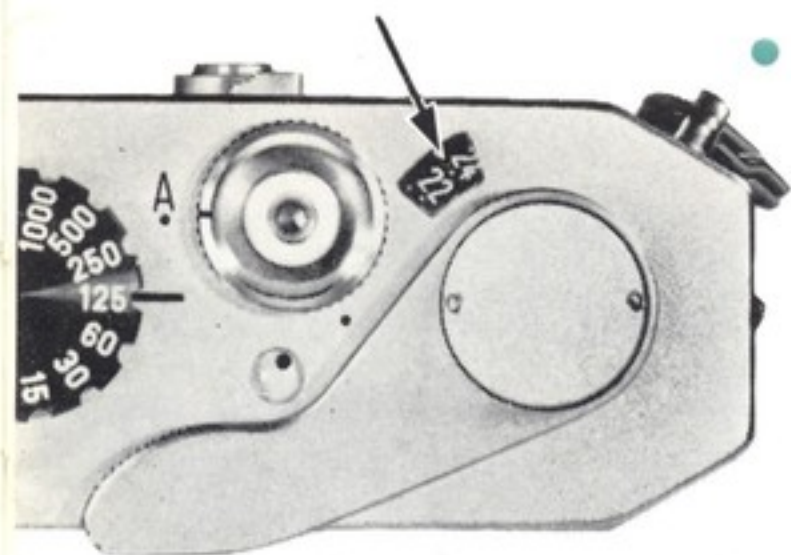


### 注 意

- 巻き上げは巻き戻しリングの指  
標がAの位置にないと満足に行  
われません。



- 巻き上げを済ませたレバーは自動的に戻りますが、畳み込  
み位置よりも少し手前で止まります。巻き上げはこの位置  
から行ってさしつかえありません。用のないときは元の位  
置に畳み込んでおきます。
- レバーは小刻みの繰り返し操作でも巻き上げられます。そ  
の際にはレバーの動かなくなったときが巻き上げ完了です。
- フィルム装填後第1回目の巻き上げのときだけは1回のレ  
バー操作で巻き上げが完了しないこともありますから、念  
のため更に1回レバーを止まるまで動かしてください。



- **フィルム枚数表示** フィルム  
が1コマ巻き上げられるごと  
に、フィルム枚数表示窓の表  
示が1目盛ずつ動いてフィル  
ムの撮影枚数を示します。  
枚数表示は裏蓋を開くと自動  
的にスタートマークに復帰し  
ます。

- **シャッターボタンの安全装置** シャッターボタンには安全  
装置があって、巻き上げを完全にしていないと押しでも動  
きません。これによって二重露出を防ぎ、また早押しによ  
るフィルムの無駄が防げます。

## シャッターの調節

シャッターは 1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/125, 1/250, 1/500, 1/1000 秒の秒時および X, B (バルブ) に調節することができます。調節の各秒時は順次2倍に変化する系列です。従ってレンズの絞りに応じて調節をするのに便利です。露出計連動が可能です。

ダイヤルの数字は何分の1秒という場合の分母を示します。

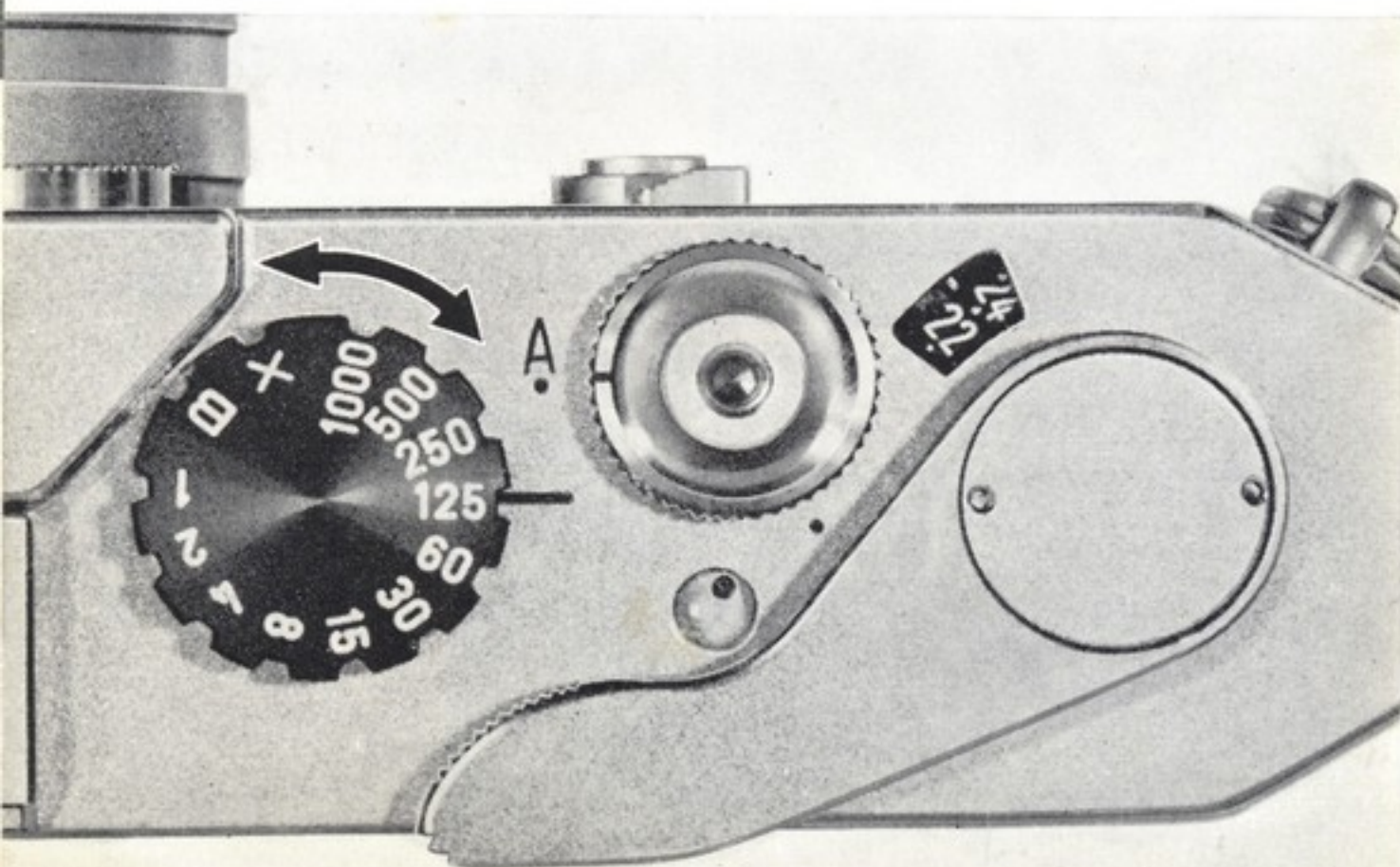
シャッター秒時の調節はシャッターダイヤルを右または左に回して必要な目盛を指標に合わせます。

B 目盛はバルブ露出でシャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから、1秒以上の露出に用います。

X 目盛はスピードライト(ストロボフラッシュ)の同調に使用するもので、シャッター秒時は約 1/60 秒ですが実用上の露出はスピードライトの性能に従ってその閃光時間だけの極くはやい露出に相当します。

目盛の間は必ずしも完全な中間秒時を示しません。

タイム露出の必要なときは、ダイヤルを B 目盛にセットし、ロック付きのケーブルリリースを使用して、露出中ケーブルリリースをロックしておきます。



## キヤノンの構え方



撮影の際、カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるのに最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って図のいずれかのように持ち、ファインダーを覗いてピント合わせをし、更に撮影範囲をきめた後、静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。

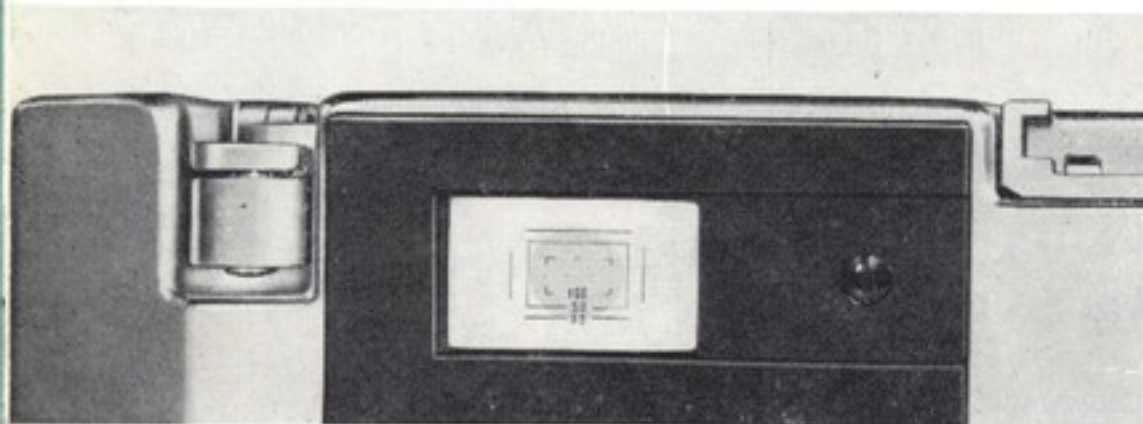
1. 両手は努めて深くカメラを握り込むこと。
2. カメラは頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること

- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
- 撮影は三脚とリリースを使う方が確実です。1/30 秒以下のスローシャッターを切るときは特にこの点に注意してください



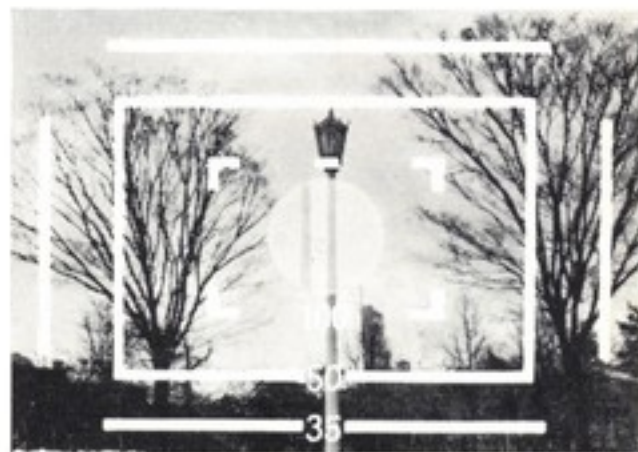
## ピントの調節

レンズには無限遠にピントを合わせた位置でレンズを止めるストッパーが付いておりますから、これを押して止めをはずしながら調節胴を回します。調節胴を回すとレンズが進退し、レンジファインダーに連動してピントの調節ができます。レンズの種類によってはストッパーのないものもあり、その場合は直ちに調節胴を回します。



### レンジ・ビューファインダー

レンジ・ビューファインダー覗き窓を覗きながらピント調節をすると、四角な視野の中央やや明るい円形輪郭内で、被写体の二つの像が重なったり離れたりします。二重像が完全に合致したとき、レンズはその被写体にピントが合います。

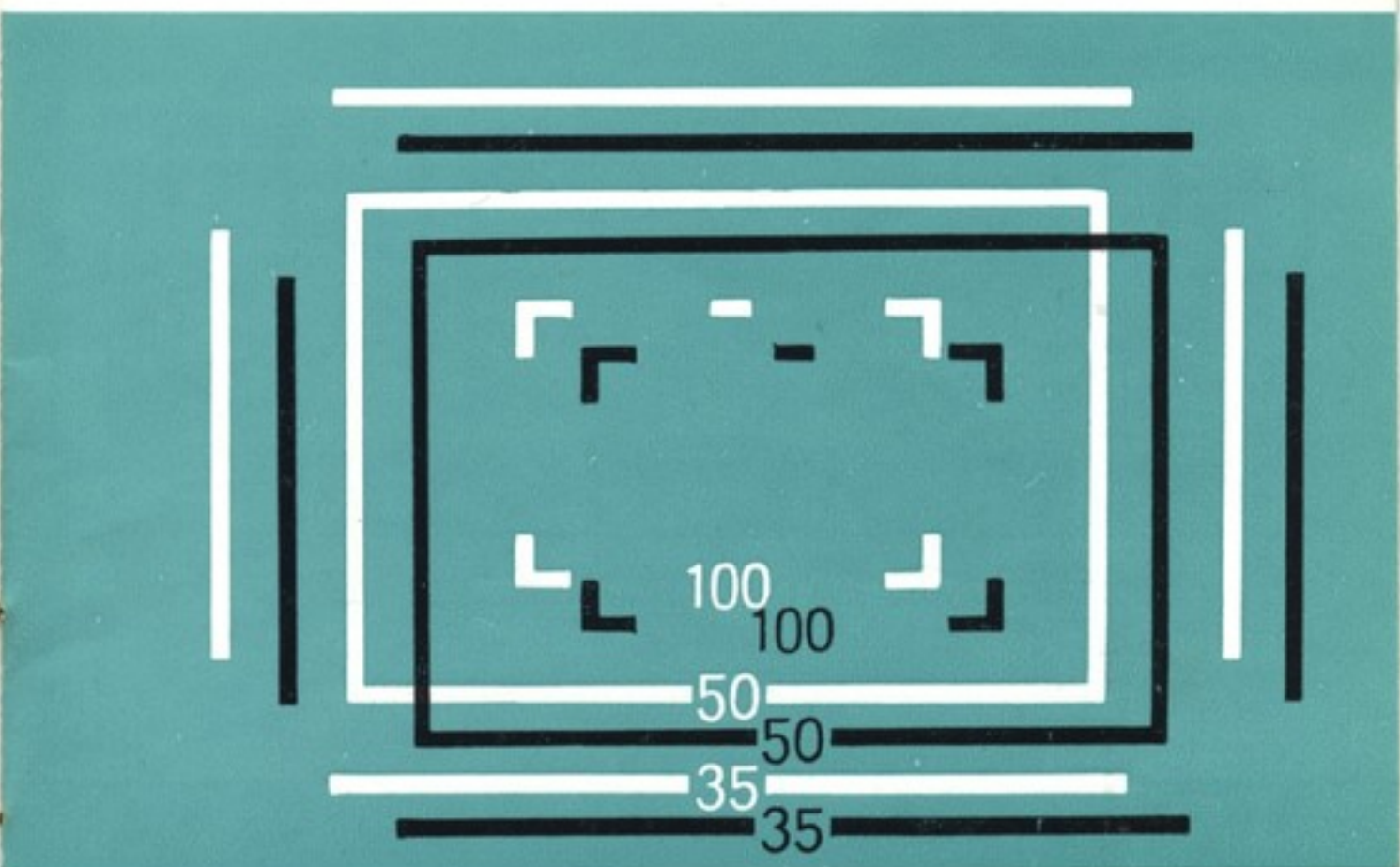


ピントが合っていないとき



ピントが合っているとき

二重像を合わせるには主被写体の像が、中央の円形輪郭の中心に見えるようにします。特に近距離被写体に対しては大切です。



**ビューファインダー** レンジ・ビューファインダーの視野には更に四角な明るい線枠が三重に見えます。一番大きい線枠は35mm レンズで写し込める画界を示し、その次の大きさの線枠は50mm レンズ用の画界を、最も小さな線枠は100mm レンズ用の画界を示します。これらのファインダーはピント合わせに連動して、撮影レンズに対するパララックスが自動的に矯正されますから、狙った通りの範囲が完全にフィルム面に収まります。

### 補助ファインダーの使用

キヤノンレンズには焦点距離の種別に従って補助ファインダーが用意されています。

P型でビューファインダーの視野に、画界が表示されていないレンズを用いる場合は必ず補助ファインダーをご使用ください。

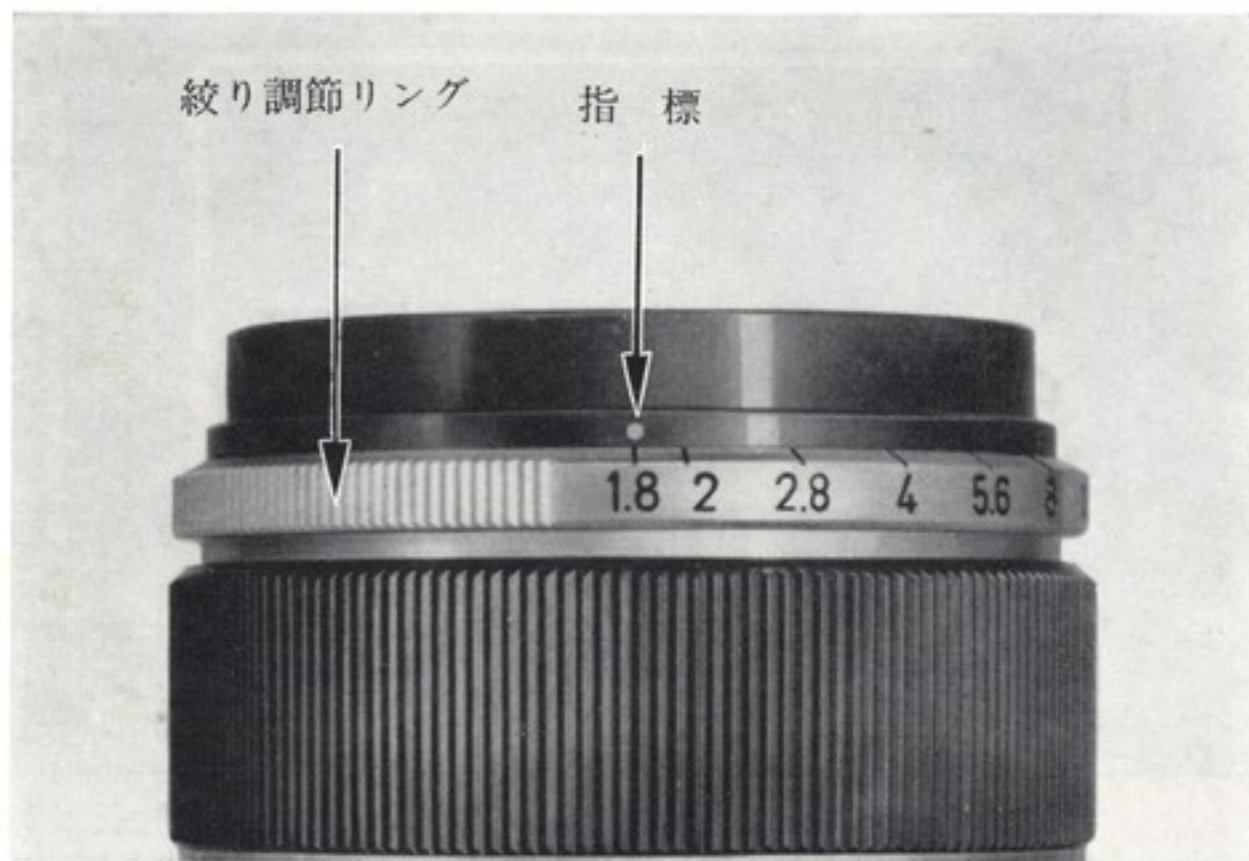
補助ファインダーでは、手動的にパララックスの矯正をいたします。

種類: ・ルミフィールドファインダー P  
135mm, 100mm, 85mm, 50mm  
レンズ用

・ファインダー P 35mm レンズ用  
(25mm および28mmレンズに対してはファインダー Vとファインダーカプラーを組み合わせて使用します)



# レンズの操作



**レンズの絞り目盛** レンズの絞りはフィルムに達する光の量の調節や被写界深度の調節をするもので、調節リングを回して適当な目盛を指標に合わせます。

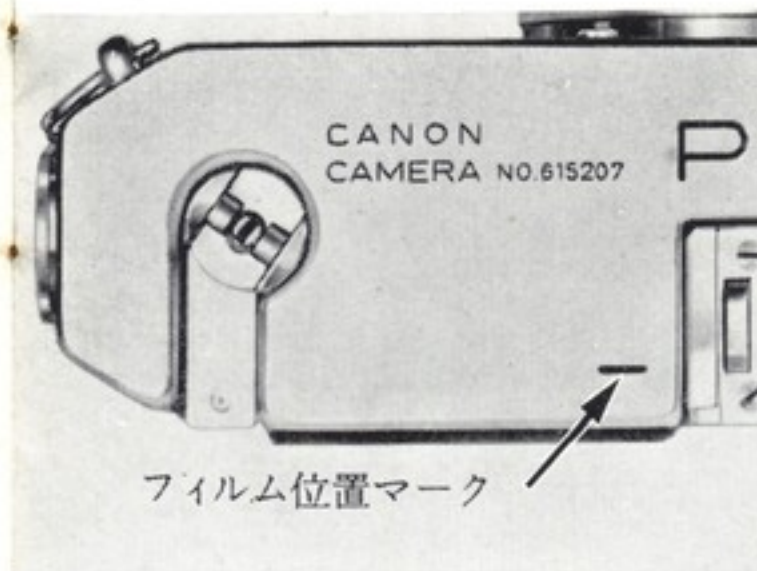
絞りはその数値が大きくなるにつれてレンズが暗くなり、目盛の一段ごとに、明るさが半減するようになっています。従って絞りを1目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、2目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間も用いることができます。レンズによっては最大口径の絞り値だけは、次段の絞り値との間に、必ずしも明るさが半減する関係になっていないものがあります。

キヤノンメーターを使用するとシャッタースピードと絞り目盛の決定がきわめて簡単にできます。

絞り値	1.2	1.4	1.8	2.0	2.8	(3.5)	4.0	5.6	8.0	11	16	22
露出比率	0.36	0.5	0.8	1	2	(3)	4	8	16	32	64	128

**等間隔目盛** 絞りの目盛は調節リングの回転角が等間隔になるように目盛ってありますから、絞り目盛の間も用いる際でも容易に適正な調節ができます。

**距離目盛** はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。キヤノンではレンジ・ビューファインダーでピントを合わせますから、普通の撮影では必ずしも必要はありませんが、次に述べる被写界深度を知る場合や赤外撮影の場合に必要になります。距離目盛は一桁数字の距離ではその文字の中心、二桁数字の距離では二つの文字の間、三桁数字の距離では中央文字の中心が正しい目盛位置になります。



特殊の場合レンジ・ビューファインダーによらないでピントを合わせるには、被写体までの距離を実測して距離目盛を距離指標に合わせます。その際の実測距離はフィルム面に一致した位置にあるフィルム位置マークから測ります。

**被写界深度目盛** 一つの被写体にピントを合わせたとき、その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので、距離目盛と関連しています。これを使用するには、たとえば 50mm レンズで 7m の距離にある被写体にピントを合わせたとき F5.6 の絞りを使うとすれば、距離指標の両側で一对の 5.6 の目盛の示す距離すなわち約 4.7m

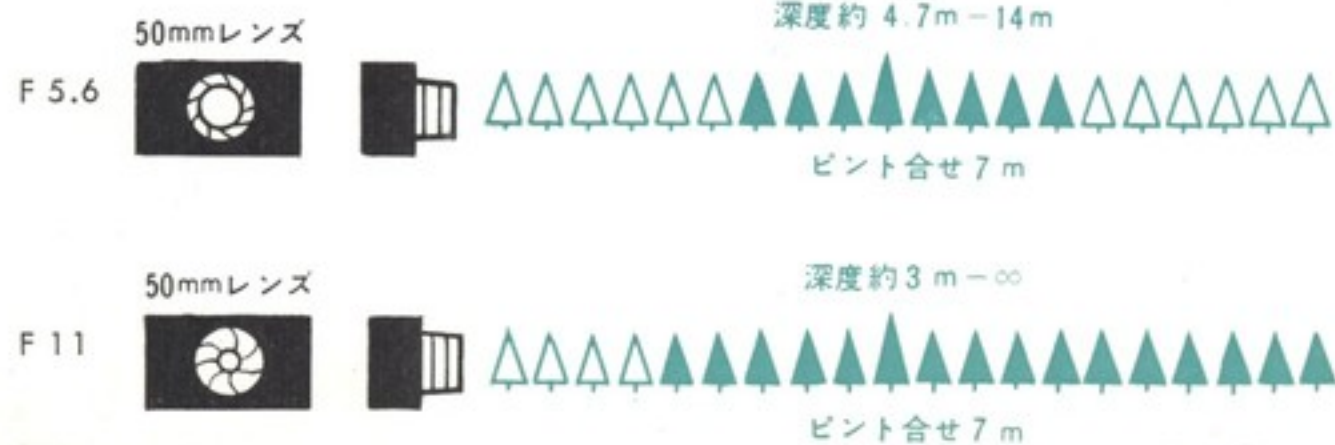
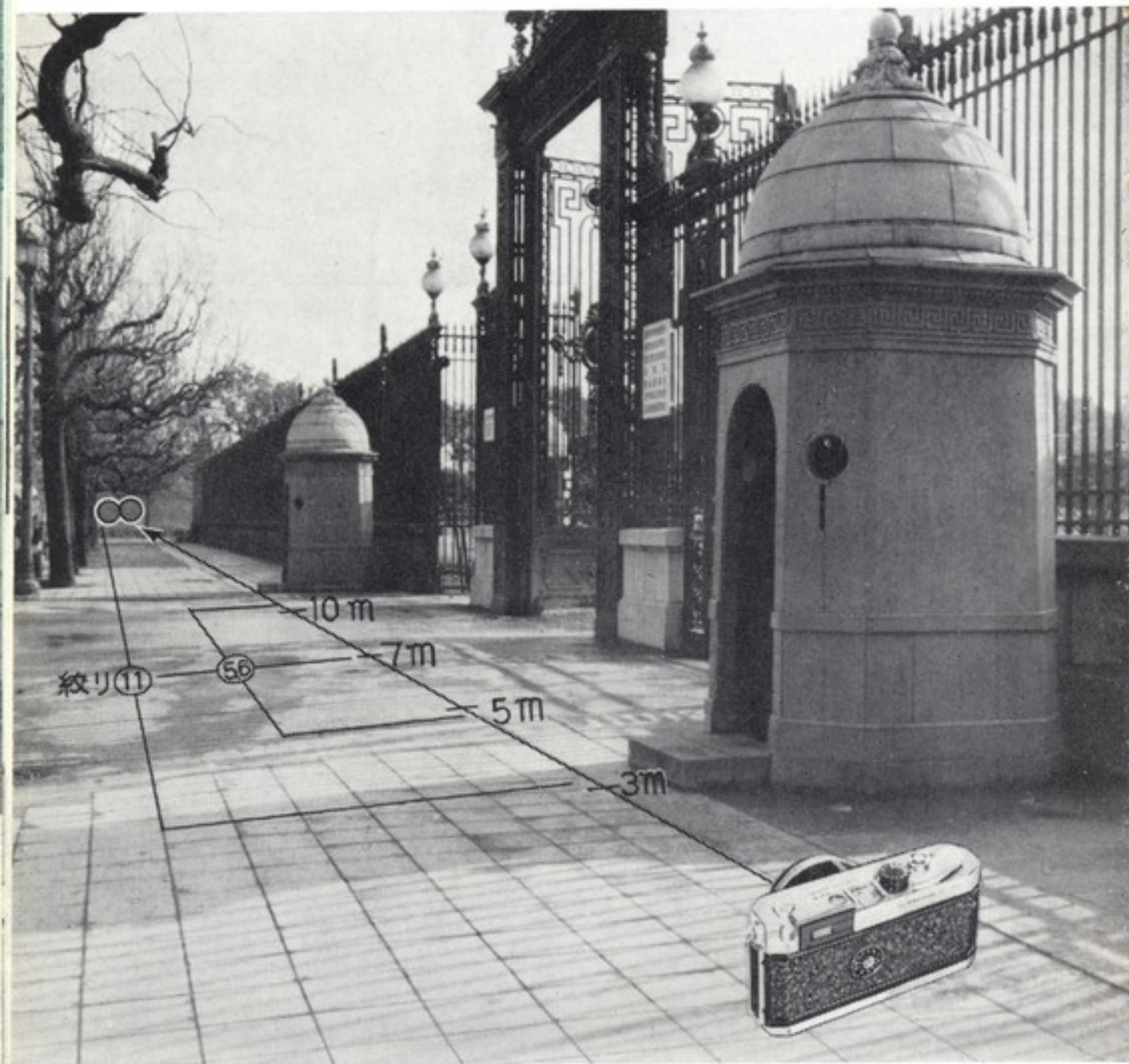
と約 14m とを読みとります。

この間にあるものは鮮明に写るわけです。同様にして F11 に絞れば 3.5m から∞まで鮮明に写ることがわかります。

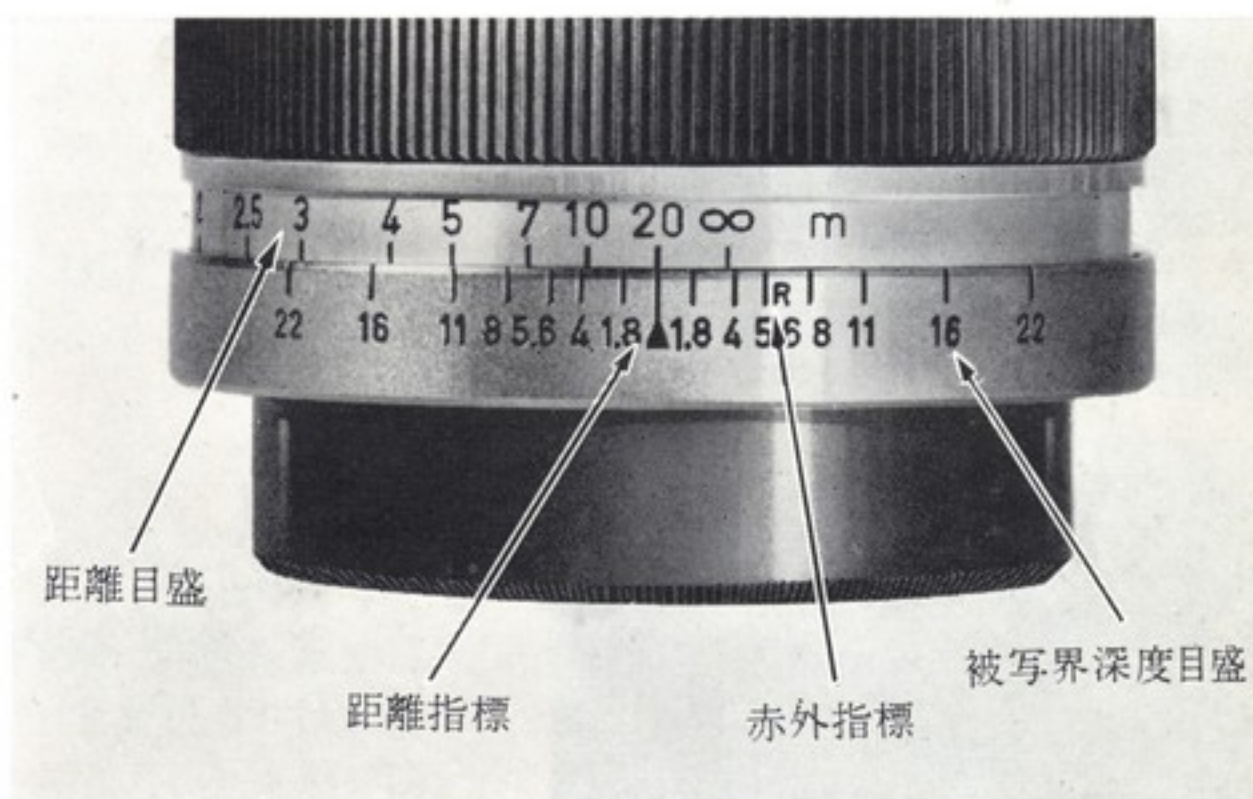


被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

シャッターダイヤルは目盛の中間が使いませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合は、シャッター速度を先にきめ、これに応じて絞りを加減することが最も合理的となります。



**赤外指標 (赤外マーク)** 赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれるので、修正を要します。レンジ・ビューファインダーで普通にピントを合わせた後、まず距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外指標まで移動させます。たとえばピントを合わせた結果が距離目盛で20だったとすれば、この20の目盛をRの位置までずらせます。目測や巻尺で距離を合わせる場合は、距離指標の代わりに赤外指標を基準にして距離目盛を合わせます。



赤外指標は  $8000\text{\AA}$  程度の波長に最大感度を持つフィルムと赤外フィルター (たとえばコダック IR 135 フィルムとラッテン 87 または IR77~78 (JIS) フィルター) とを用いる場合を標準にして目盛っております。赤外部を使用する場合たとえばプラス X、あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 または SR59~60 程度の赤色フィルターを添用する際などには修正移動を  $1/3$  位とするのが適当です。

レンズの泡は明るさを、何百分の一か、何千分の一か減らすこととなりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんが、また像の鮮鋭度にも何等影響ありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは、気泡の残存を免かれませんが、高級レンズの製造上やむをえないものとしてご了承願います。



## フィルムの装填

フィルムは市販の 35mm 日中装填用パトローネ (カートリッジ) 入りフィルムでも、キヤノン専用マガジン V に入れたものでも同様に用いられます。



1. 底部のマガジン開閉つまみを引き起して左回しに半回転します。

2. 裏蓋止め金を引き、裏蓋に指をかけてあけます。

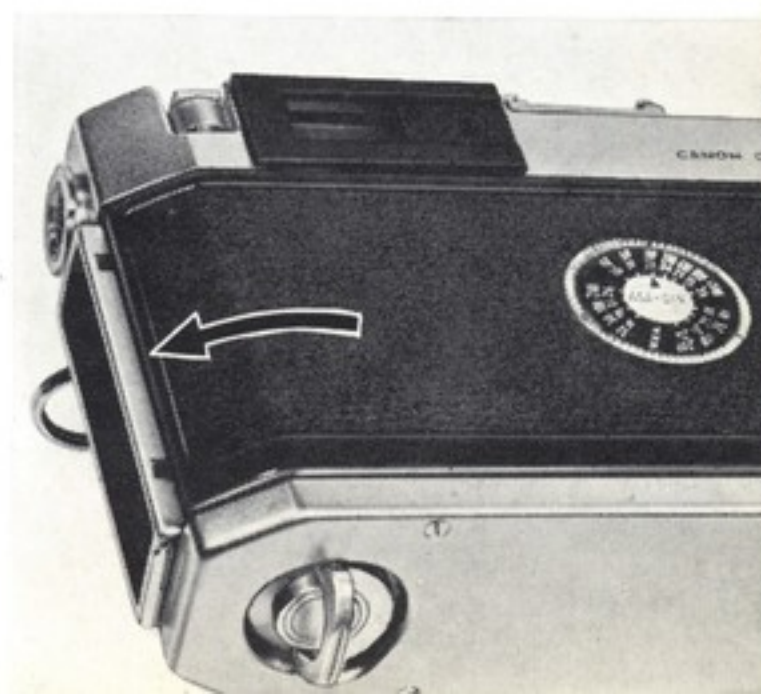
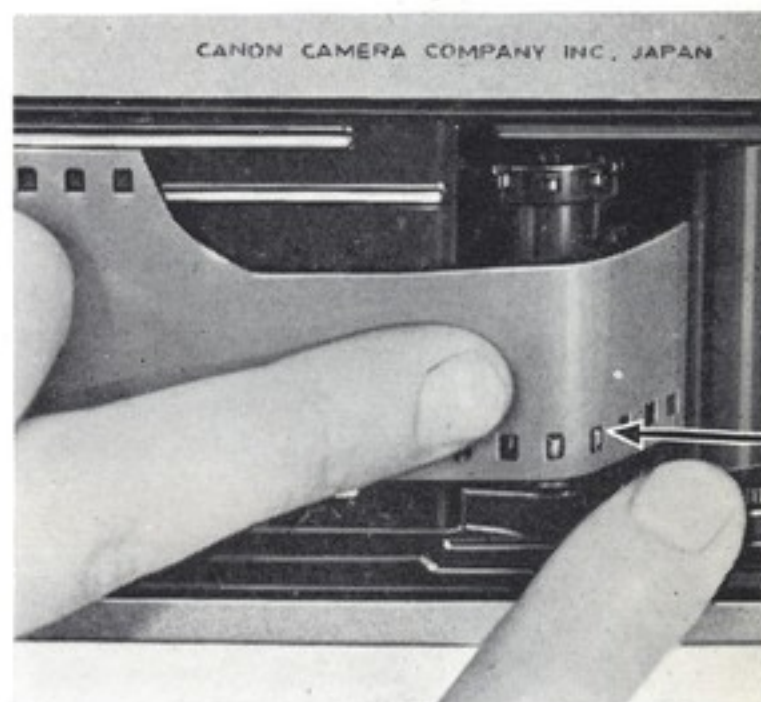
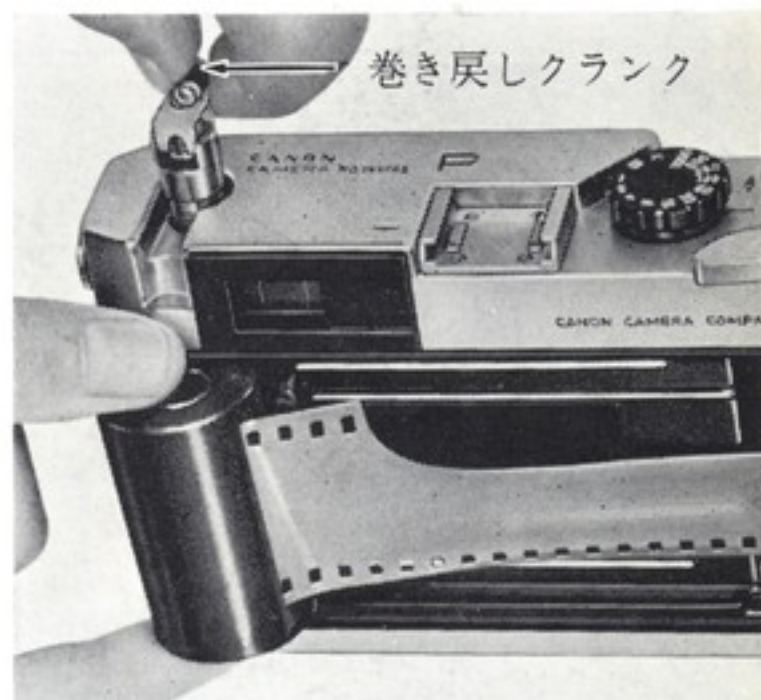
3. フィルム端を巻き取りスプールの溝に十分差し込み、スプールのつばを矢印の方向に少し回しながら溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけます。

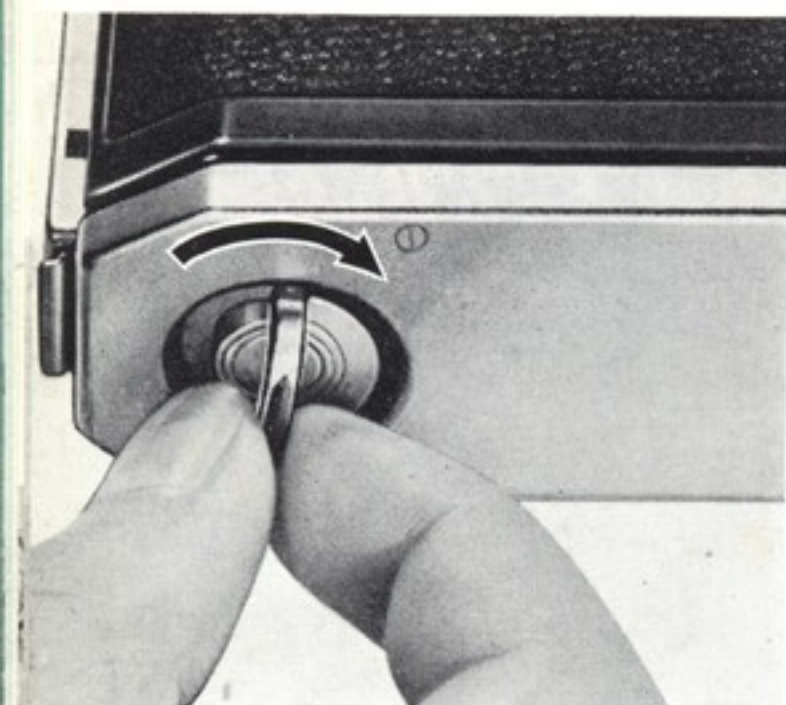
4. 巻き戻しクラックを充分に引き上げた後、パトローネまたはマガジンをカメラ内に収め、再び巻き戻しクラックの軸を元のように押し込みます。

5. その際フィルムの孔をスプロケットの歯に完全にかけて、またフィルムにたるみがあれば巻き戻しクラックを矢印方向に回してたるみを取っておきます。

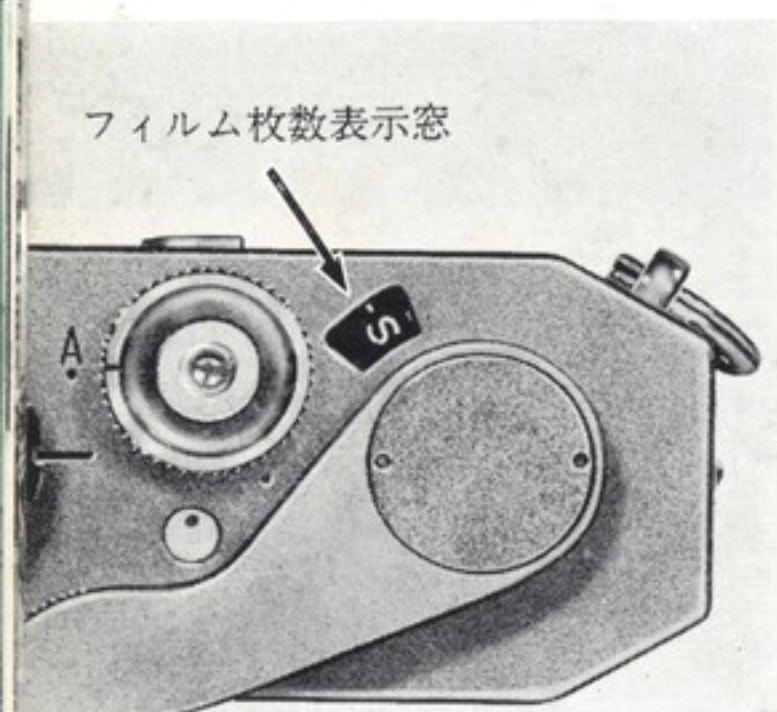
6. 裏蓋を閉じます。巻き戻しクラックは折り畳んでおきます。

巻き戻しクラック





7. 最後にマガジン開閉つまみを右回しに回して元通りに収めます。裏蓋を閉じる前にマガジン開閉つまみを回してはなりません。



8. レンズキャップをかぶせたまま、巻き上げの操作をして二回空写しをします。フィルム枚数表示はフィルム装填のはじめ S (スタート) の位置に復帰していますが、二回の空写しによって 0 の表示が出ます。次に巻き上げをすると一枚目の撮影準備ができます。

### フィルム装填良否の確かめ方

巻き取りをするごとに、巻き戻しクランクの軸の中心が回りまわります。このことでフィルムが正しく巻き取られているか否かがわかりますから、巻き上げの際は、いつもこれを見るようにお勧めします。もし回らなければ、フィルムの端がスプールから抜け出しているか、フィルムの孔がスプロケットからはずれていることとなります。その場合は、19 頁のフィルム巻き戻しの要領で、フィルムを一旦取り出して装填し直さなければなりません。

### フィルムタイプ表示盤

使用フィルムの感度や種類を表示しておくもので、円盤の周囲にある刻みの部分を指先で押さえながら回して指標に表示数字を合わせます。

白色数字は黒白フィルム用、青色数字はデイトライトカラーフィルム用、黄橙色数字はタングステンカラーフィルム用で表示数字は外側が ASA 感度、内側が DIN 感度です



- フィルムをカメラに装填する場合には、直射日光下を避け、レンズキャップをかぶせたまま行うことが大切です。
- キヤノンのシャッター幕には太陽の結像にも安全で高温・寒冷・多湿に耐える 18/1000 ミリのステンレススチールを用いてあります。多少の凹凸あるいは黒色被膜にすりきずを生じても性能には影響ありませんが、極度にうすいものですから手をふれないようにご注意ください。

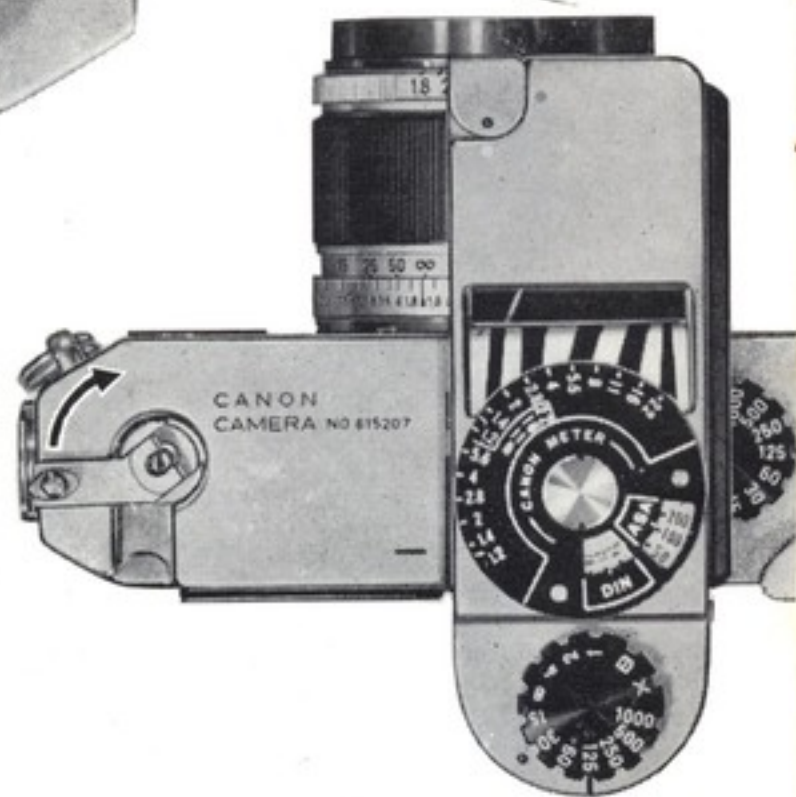
## フィルムの巻き戻し

フィルムが終りになると巻き上げに抵抗を感じますから、巻き上げを中止し、次の順序によってフィルムを元のパトローネまたはマガジンに巻き戻します。

1. 巻き戻しリングをAの位置から左回しに止まるまで回します。

2. 巻き戻しクラックを起して矢印の方向に回します。  
巻き戻しクラックを回している間フィルム巻き戻し指標の動きに注意し、その円形運動が止ったならば直ぐ巻き戻し操作を中止します。

キヤノンメーターは連動ダイヤルを十分に引きあげれば回転できますから、いちいち取りはずす必要はありません。

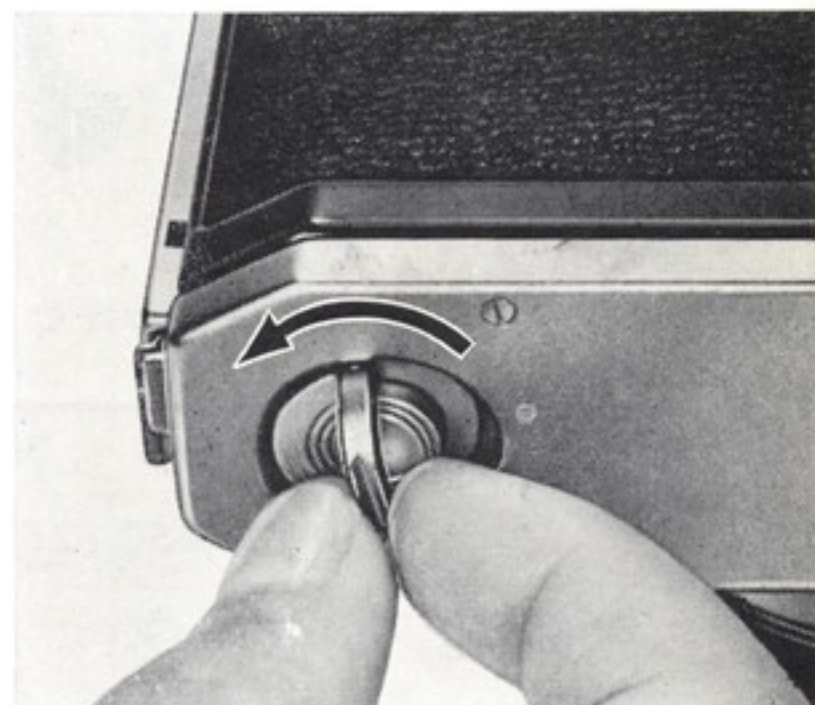


巻き戻し指標

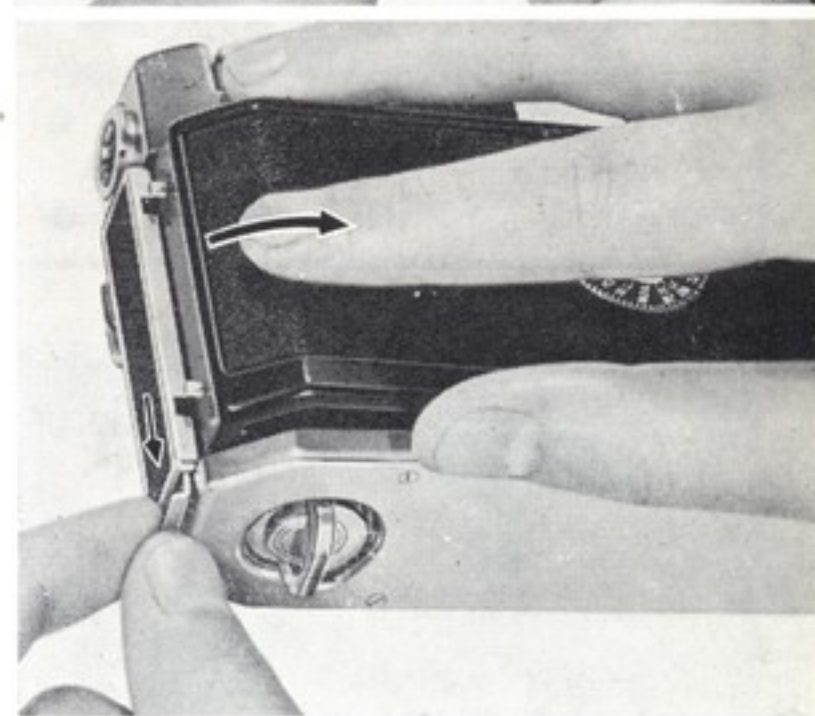
3. 巻き戻しリングをAに戻します。

- 巻き戻しの際はレンズキャップをしてください。
- フィルムが終りになっているのに、無理にその巻き上げをすると、巻き戻しができなくなって、暗室でフィルムを取り出さなければならなくなりますからご注意ください。

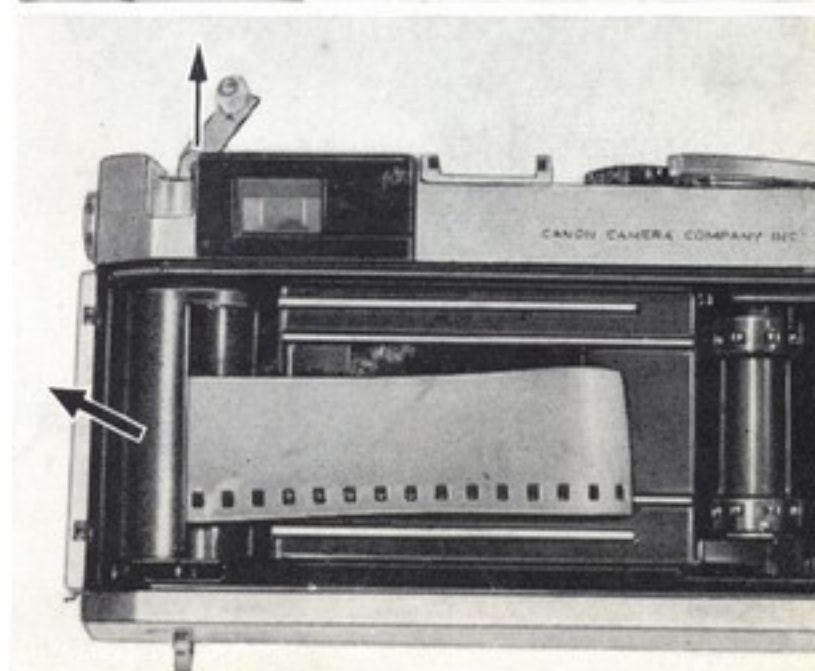
4. マガジン開閉つまみを左回しに回した後、



5. 裏蓋止め金を引いて裏蓋を開きます。



6. 巻き戻しクラックを十分に引き上げた後、パトローネまたはマガジンをカメラから取り出します。



# フラッシュ同調

フラッシュユニット直結ソケットにキヤノンフラッシュユニットVを接続しますと、シャッターボタンを押した際、これに連動して閃光球が発光し下表の各シャッター速度でフラッシュ同調撮影をすることができます。スピードライト（ストロボフラッシュ）の接続もできます。

発光のタイムラグはシャッターダイヤルのセットの際自動的に調節されます。

フラッシュ撮影の場合もレンズフードは必要です。

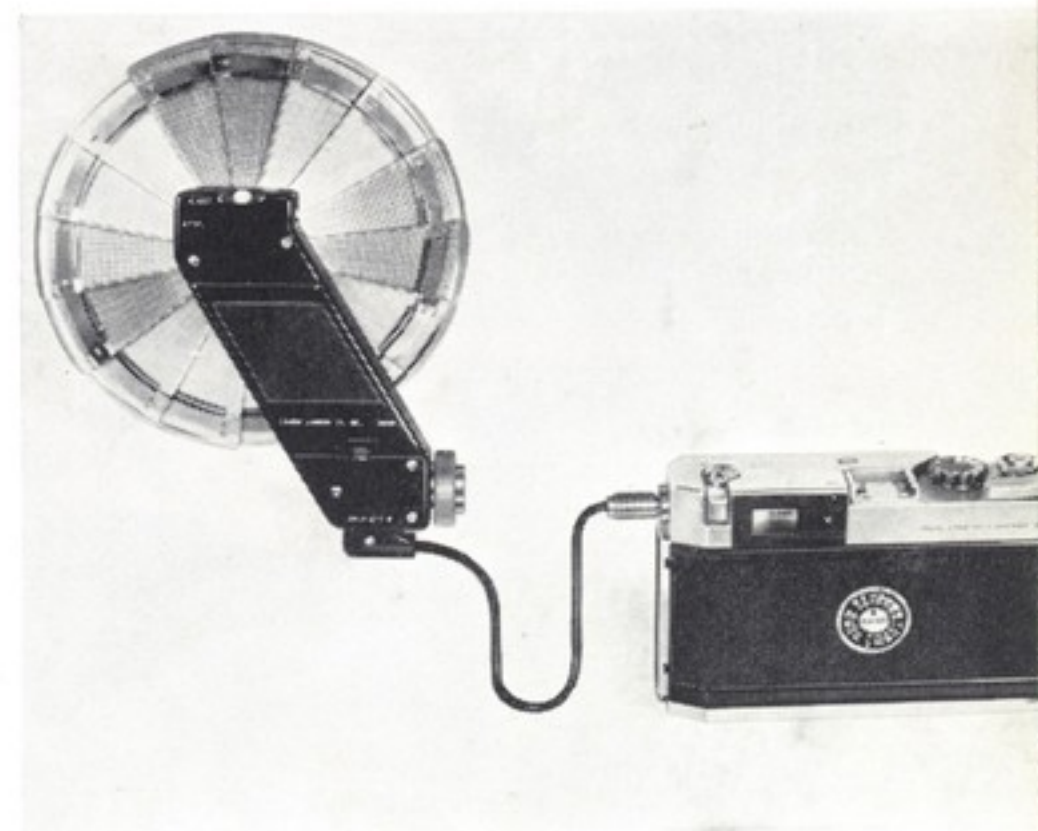
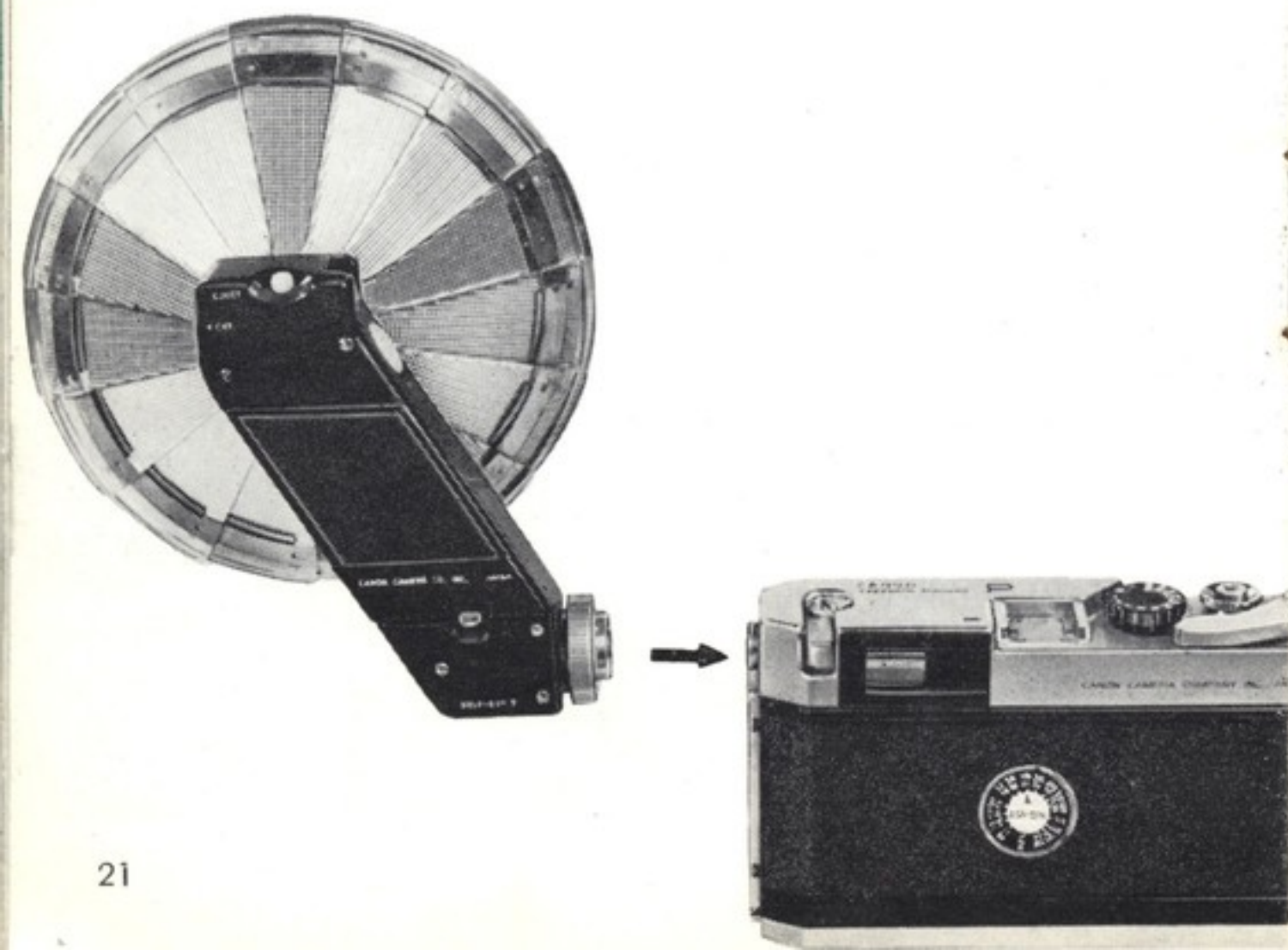
フラッシュバルブ	同調範囲													
	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	X	
FP 級	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	●
M 級	●	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	●
F 級	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●
スピードライト	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○



キヤノン スピードライト ユニット V

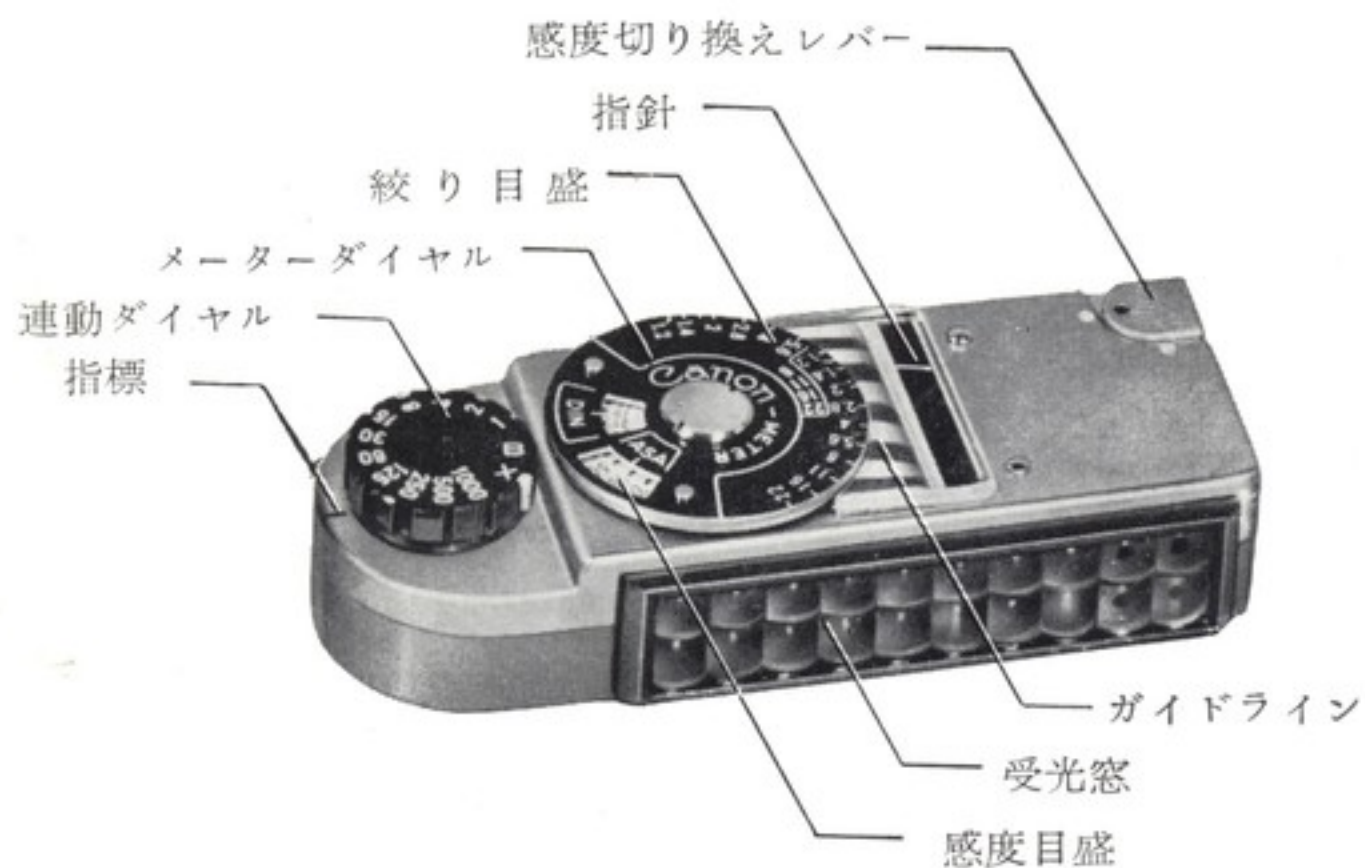
●印の部分は使用できません。

“X” 接点のシャッターとしての露出時間は約 1/60 秒です。極小型、特に Mクラスの極小型フラッシュバルブは総光量がきわめて少ないので、なるべく 1/15~1 秒などのスローシャッターを用いてください。



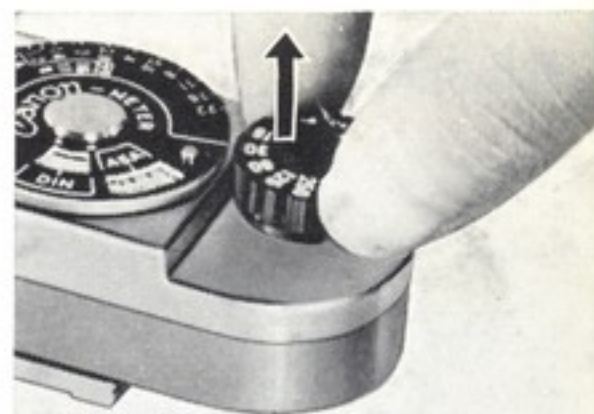
# キヤノンメーターの連動

キヤノンメーターは、キヤノン VI 型や P 型用の連動露出計です。カメラに取り付けてフィルム感度を合わせさえすれば、あとはメーターの指針が正しい露出に導いてくれます。

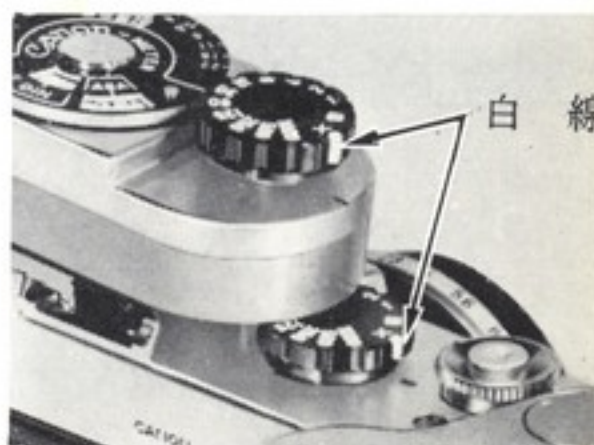


## 取り付け

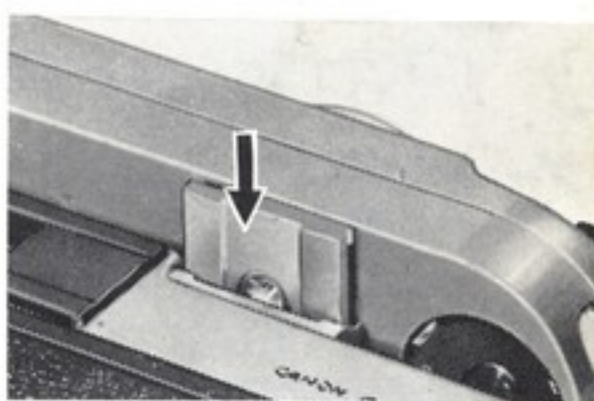
1. キヤノンメーターの連動ダイヤルを引き上げ。
2. 連動ダイヤルの目盛をカメラのシャッターダイヤル目盛に合わせます。



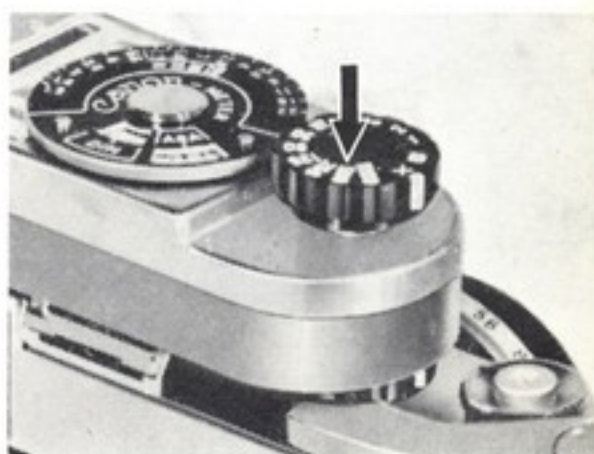
- 連動ダイヤルとシャッターダイヤルには、X 目盛の側面に白線がありますから、それを利用して双方の目盛を合わせることができます。



3. メーターの取り付け脚をアクセサリクリップに差し込みます。
4. 連動ダイヤルを押し下げて、シャッターダイヤルに連動爪を噛み合わせます。



- 連動ダイヤルとシャッターダイヤルとの白線が合っていないときには、連動爪が正しく噛み合いません。



## メーターをはずすときは

1. 連動ダイヤルを引き上げ、
2. 受光窓に無理な力がかからないようにしてメーターを静かに手前に引きはずします。

キヤノンメーターは取り付け脚を軸にして左右に回転できます。メーターの連動ダイヤルを十分に引き上げ、連動爪が邪魔にならぬようにしてから回転させてください。

カメラへの取り付け取りはずし、あるいはメーターを装着したままフィルムを巻き戻す場合に利用します。





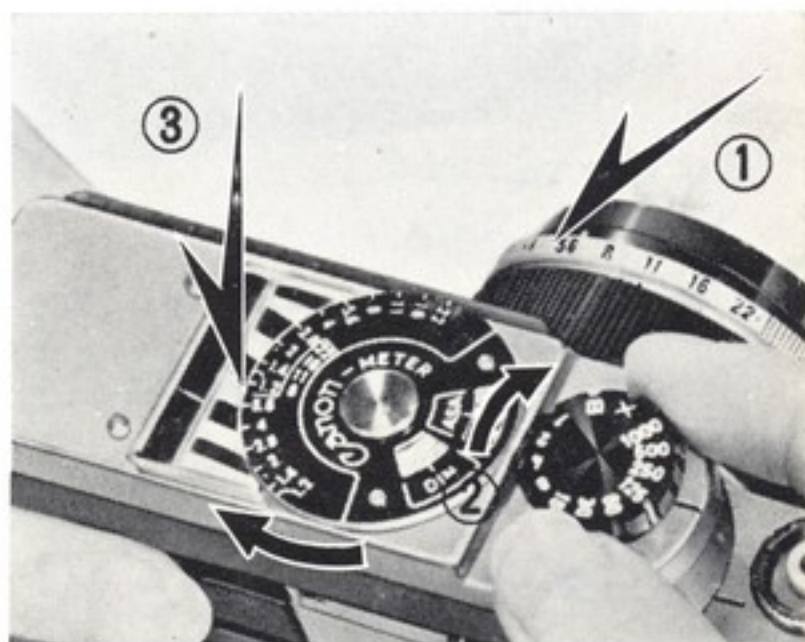
まずメーターのフィルム感度目盛を使用フィルムの感度に合わせます。それには連動ダイヤルを回らないように押さえ、メーターダイヤル面の2箇の突起に指先をかけて回します。

次に感度切り換えレバーを白点、黄橙点のいずれかに合わせます。感度の切り換えについては後の項をご参照ください。

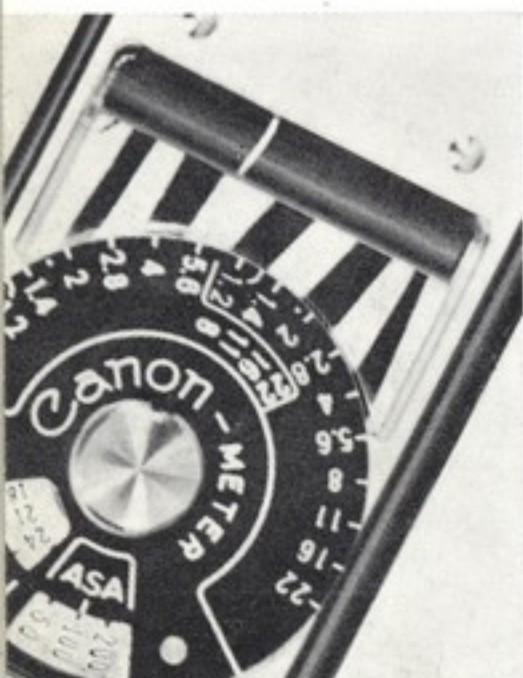
- キヤノンメーターを使用する際、絞りとシャッターのいずれに着目するかによって次の2通りの方法があります。

#### A. レンズの絞りを先にきめた場合

メーターを被写体にむけると明るさに従って、指針がふれます。連動ダイヤルを回して、メーターダイヤルの絞り目盛（レンズにセットした絞りと同じ数字）を指針に合わせます。これでカメラのシャッターダイヤルが自動的に適正露出にセットされます。



- ・ 合わせる指針の位置は、ガイドラインに沿って求めます。
- ・ 感度切り換えレバーを白点に合わせたときは白目盛を、黄橙点に合わせたときは黄橙目盛を用います。
- ・ 連動ダイヤルの目盛がメーターの指標に一致せず中間がセットされた場合には、どちらかの目盛にクリックストップさせ、その際に指針が示す絞り目盛にレンズの絞りを合わせれば確実です。



#### B. シャッターを先にきめた場合

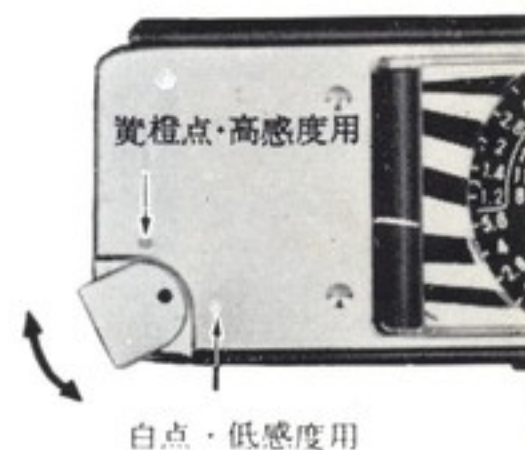
カメラを被写体に向け、キヤノンメーターの指針がさす絞り目盛を読みとって、レンズの絞りをこれと同じにセットしますとこれで露出は完全です。

- 注意**
- ・ 青空をバックにするように、背景が特に明るい場合の測定に、受光窓を上に向けすぎますと明るく感じて、かんじんな主被写体が露出不足をきたすおそれがありますからご注意ください。なお指針を読み取るさいにもカメラを上に向けないご配慮が必要です。
  - ・ 逆光の撮影に、バックあるいは主被写体のいずれに重点をおくか、あらかじめ結果を予測しての測定が大切です。
  - ・ 一本のフィルム全部がムラなく、均一なネガに仕上がれば理想的です。そのためには最初から使用現像液をきめ無理な露出をしないようにおすすめします。

#### メーター感度の切り換え

被写体が明るくてメーターの指針が振り切れるとき、または被写体が暗くて指針が動かないときは感度切り換えレバーを回して感度の切り換えをします。

レバーの指標が白点を指すときは低感度用（明被写体用）で、メーターの絞り目盛は白色目盛を用い、レバーの指標が黄橙点を指すときは高感度用（暗被写体用）で、絞り目盛は黄橙色目盛を用います。



#### 入射光式としての用法

受光窓の前面に拡散板を取り付けると入射光式に用いることができます。入射光式の場合はメーターをカメラごと撮影位置に向けて先と同様に露出の決定をします。拡散板を取り付けるにはその金具を受光窓側部の差し込み溝に上方からはめて押し下げます。



拡散板

## セルフタイマー

シャッターを普通に巻き上げ、セルフタイマーのレバーを黒矢印の方向に巻き上げた後、シャッターボタンを押すと、まずセルフタイマーがはたらき、約10秒おくらせてシャッターが作用します。

レバーは巻き上げの位置によっておくれる時間の調節ができますが、約三分の二以上巻き上げないとシャッターが作用しません。

シャッターの巻き上げとセルフタイマーの巻き上げとはいずれが先でもさしつかえありません



カメラを海水や泥水の中に落したときは時を移さず清水で洗い、レンズを取りはずしてきれいに拭いたのち直ちに修理にお出してください。グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります。

## レンズの交換

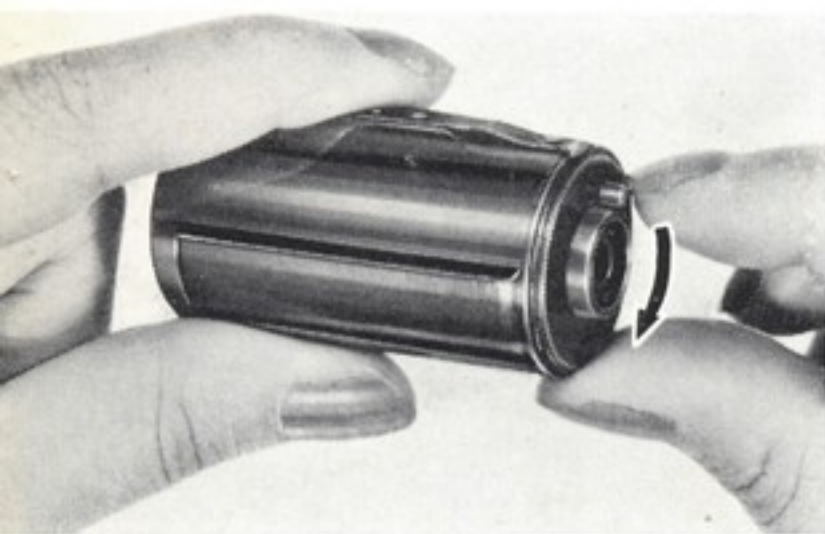


カメラからレンズをはずすには、カメラを背部から平らに持ち、他方の手でレンズの基部をつかんで左回し（小矢印方向）に回します。

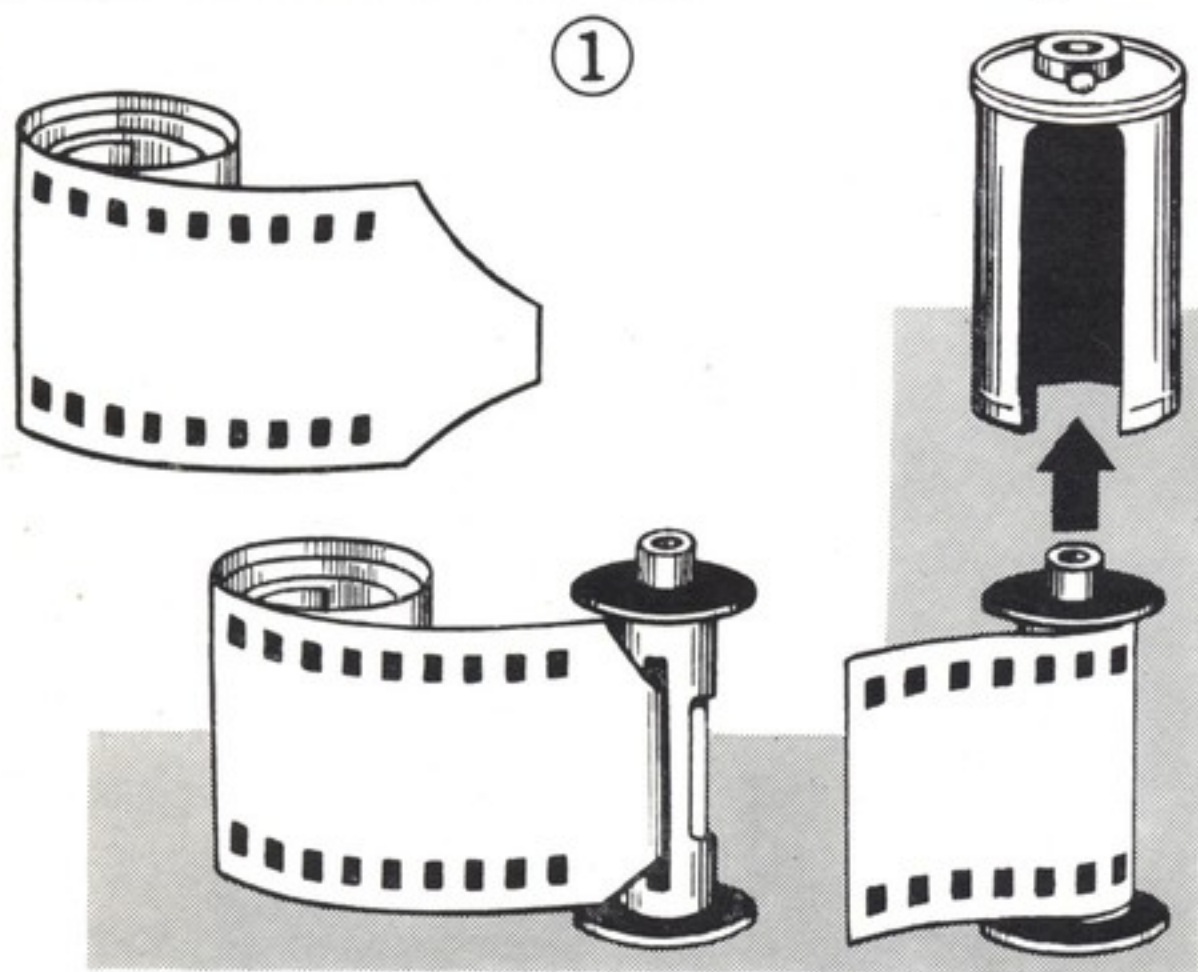
レンズを取り付けるには、レンズ底蓋を取り去った後カメラを前と同様に持ってレンズを静かにねじ込みます。ねじ込みの始め、特にレンズを左回しにわずかに回しますと、ねじが合いますから、あらためて右回し（大矢印方向）に回して十分止まるまでねじ込みます。レンズ交換の際、無限遠ストッパーはロックしたままでさしつかえありませんが、長焦点および望遠レンズではヘリコイドを伸び出させておく方が距離計のために安全です。

レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。別のレンズをすぐ取り付けられるように用意しておいて、なるべく光線の弱い場所、もしなければ自分の身体の陰などで、手早く交換取り付けを行います。

# キヤノン専用マガジンとフィルムの詰め方

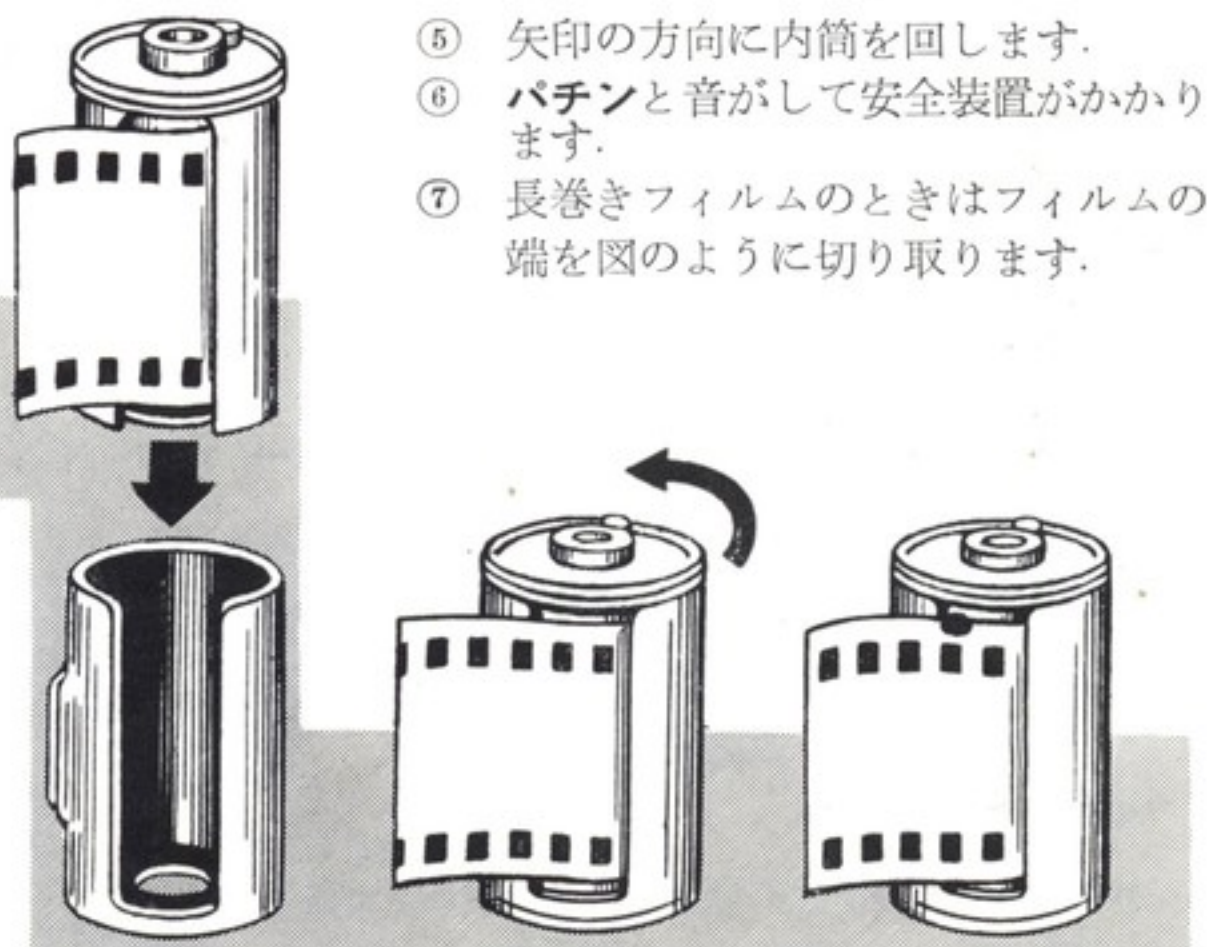


- ① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押すと、ロックがはずれて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓口が合ったとき内筒を引き出します。
- ② フィルムの乳剤面(巻きぐせの内側)を向うむきにしてかどを切りとり、その先端をスプールの軸溝に差し込みます。軸溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止め作用で戻らなくなるはずですから、少し動かして確かめてください。
- ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻き込み、これを内筒に取りめます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて、後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
- ④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます。



②

③

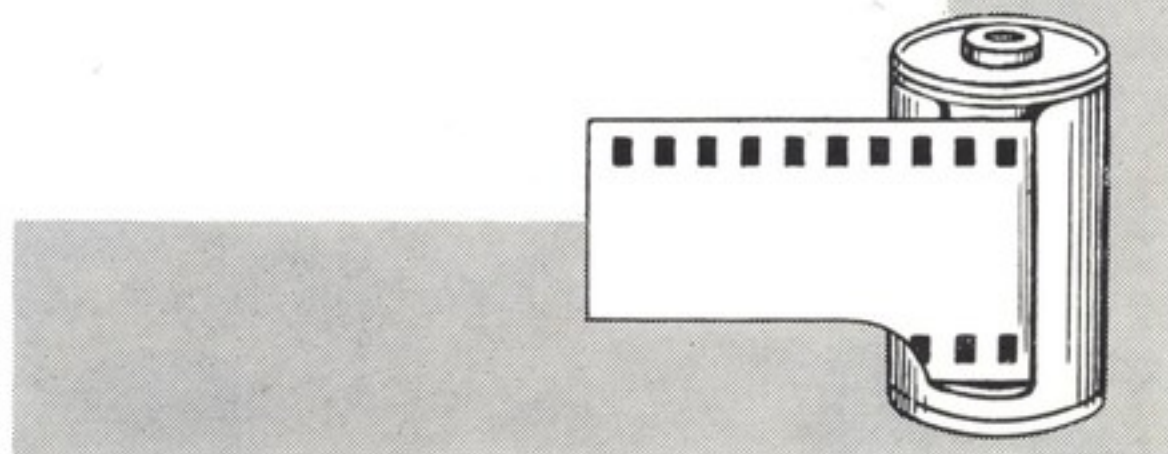


④

⑤

⑥

- ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
- ⑥ パチンと音がして安全装置がかかります。
- ⑦ 長巻きフィルムの場合はフィルムの端を図のように切り取ります。



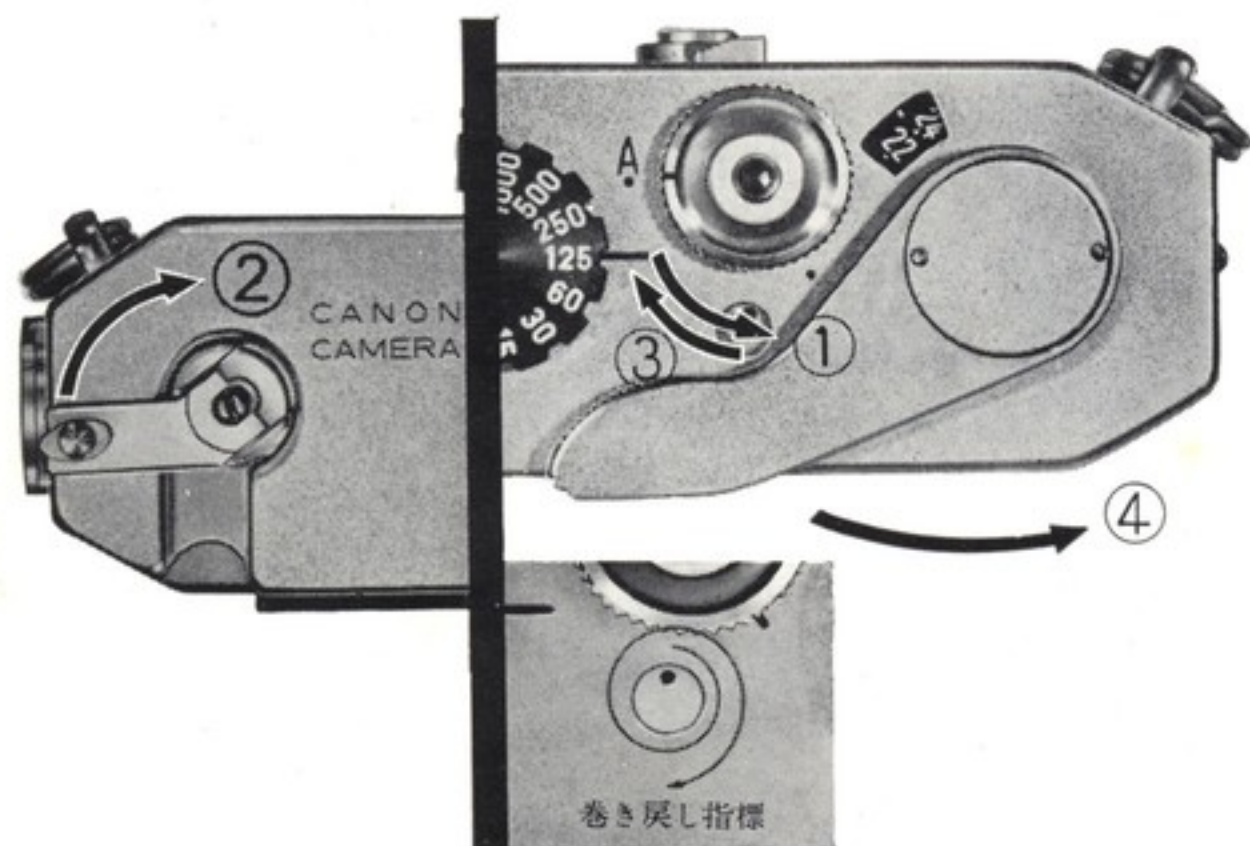
⑦

- フィルムの取り扱いには安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。
- フィルムを入れたマガジンはカメラに装填するとき以外は必ずマガジンケースに収めておいてください。
- スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると、フィルムにシミが生じたり、マガジンを錆させたりしますから、綺麗に拭いて使用することが大切です。



## 二重露出

キヤノンは二重露出防止になっていますが、必要の場合次のようにすると二重露出ができます。



- ① まず巻き戻しリングを巻き戻しの場合と同様に A の位置から、左回しに止まるまで回します。
- ② フィルム巻き戻し指標の動きに注意しながら、巻き戻しクラックを右回しに回し、巻き戻し指標が約 1 回転半したところで巻き戻しを止めます。
- ③ 巻き戻しリングを A の位置に戻します。
- ④ 次にレバーを普通に動かしてシャッターの巻き上げをすれば前のフィルム面に二重に撮影することができます。レバーは念のため一回以上止まるまで動かしてください。この操作をくり返せば同一フィルム面上に何度でも露出することができます。また同様に巻き戻し指標を 2 回半回転させれば 2 枚前のフィルム面から二重撮影ができます。

ただし枚数計は巻き上げするたびに進みます。

レンズキャップをかぶせたまま誤ってシャッターを切った場合も、この方法でシャッターの巻き上げをすれば、フィルムを無駄にしないで済みます。



**速写ケース** キヤノンを速写ケースに入れたときは、底の三脚止めねじをカメラの三脚ねじ孔にねじ込んでおきます。速写ケースが新しいときや、縦位置撮影のときは、うっかりするとケースの蓋がレンズの前に出て、邪魔をすることがありますから注意を要します。ケースの蓋は取っておくこともできます。



### アクセサリと交換レンズ

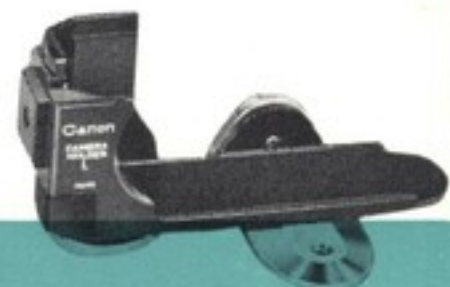
キヤノン P のご愛用にあたって、まず次のアクセサリをお選びください。

**レンズフード** 有害光線を除き、特に逆光撮影に有効です。

**フィルター** UV, Y<sub>1</sub>, Y<sub>3</sub>, O<sub>1</sub>, R<sub>1</sub>, G<sub>1</sub> その他各種ありますが、UV は紫外線のみをカットして画像のコントラストを高めると同時に、レンズの保護をかねて常用できるため便利と申せましょう。その他適宜にお選びください。

**カメラホルダーとケーブルリリース** は三脚使用のさい必要です。

**交換レンズ** 広角 35 ミリおよび 100 ミリ望遠の両方を準備されれば完べきと申せます。



## カメラの保存手入れ

カメラを保存するのに高温と湿気は禁物です。筥笥など密閉した中に長くおくのも感心しません。特に梅雨期などはなるべく乾いた外気に触れさせるのが望ましいことです。写真暗室や化学薬品の多い室におくのもよろしくありません。万全をはかるならば、缶とかデシケータ（乾燥器）とかにシリカゲルやアドソールなどの乾燥剤とともに入れておくのがよいことです。

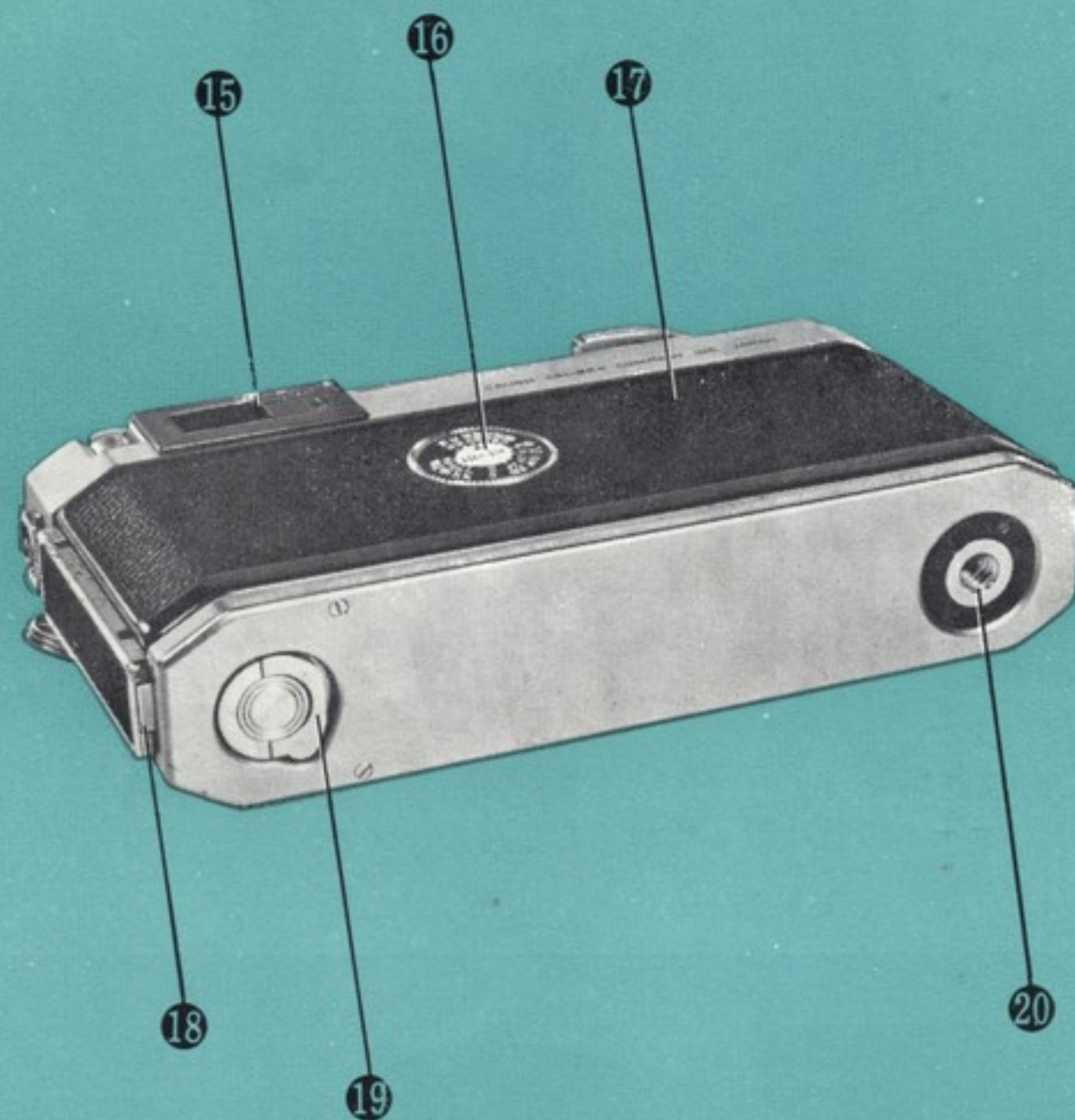
**カメラの手入れ** 野外で使ったカメラは塵埃が付き易く、また雨の日や海辺で使ったときは、気付かないうちに水滴や塩分を受け勝ちなので、放置するとシミや錆を生じ、またレンズの焼けや腐蝕の原因になります。このような際は、柔い刷毛で埃を払い、更に乾いた柔い布で丁寧に拭きます。油類は使用しない方が安全です。汗の指で触れるのも禁物です。

**レンズの手入れ** レンズにはなるべく手を触れないのが安全で、柔い刷毛か羽で軽く埃を払う程度に止めたいのですが、やむを得ないときは、洗いさらした柔い清潔な綿布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜても可）を付け、レンズ面の中心より外側に、渦巻きを描くようにして軽く静かに拭きます。拭くそばからアルコールが乾いていく程度が良好です。強く拭いたり、埃の付いているままで拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。

キヤノンにはどのキヤノンレンズでも使用できますが 50 mm F 3.5, 50 mm F 1.9 のような沈胴式レンズを取り付けた場合は速写ケースに納めるときも常に鏡胴を引き出したままにしておいてください。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申し上げることができます。

カメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします。



- |   |                  |        |
|---|------------------|--------|
| ⑮ | レンジ・ビューファインダー覗き窓 | 9      |
| ⑯ | フィルムタイプ表示盤       | 18     |
| ⑰ | 裏蓋               | 15, 20 |
| ⑱ | 裏蓋止め金            | 15, 20 |
| ⑲ | マガジン開閉つまみ        | 15, 20 |
| ⑳ | 三脚取り付けネジ孔        | 34     |